



参考資料

# 神奈川県の医療費動向 医療費適正化計画の各目標値の現状について

神奈川県健康医療局保健医療部医療保険課

令和5年6月1日

# 資料内容

1 医療費の動向等について

2 各目標値の現状について

(特定健康診査の実施率、特定保健指導の実施率等)

3 医療費適正化の効果について

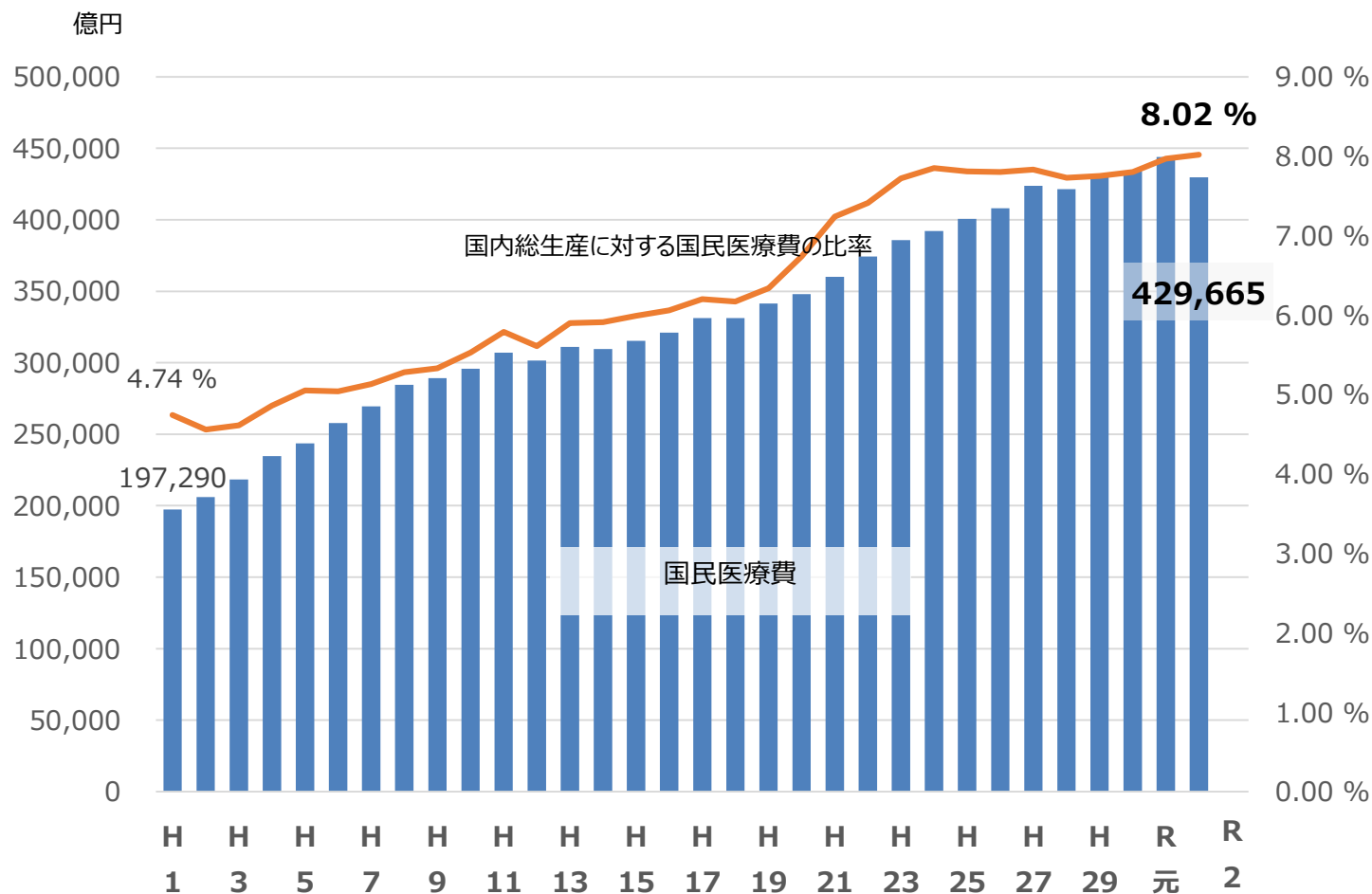
○本資料について

資料 1、2 の医療費の動向・目標値等の達成状況や評価に関するグラフ等の補足資料になります。

# 1 医療費の動向等について

# 医療費の動向①

## (1) 全国の医療費

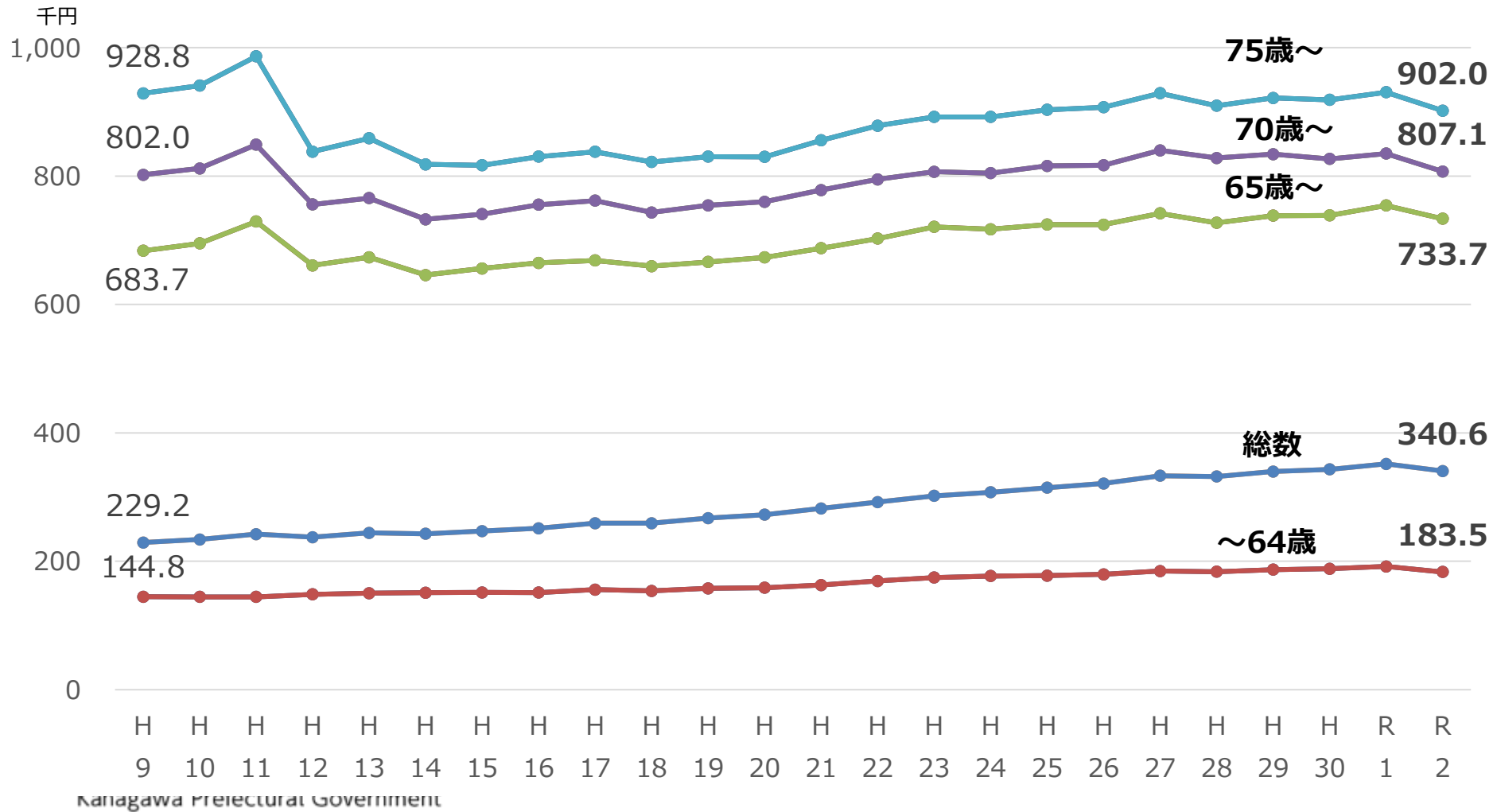


令和2年度（2020）の国民医療費は42兆9,665億円と、前年度より減少しましたが、平成元年度（1989）以降、増加傾向にあります。

また、国内総生産に占める国民医療費の割合については、近年は7%台後半で推移していましたが、令和2年度（2020）は8.02%となりました。

# 医療費の動向②

## (2) 全国の年齢階級別一人当たり国民医療費の推移



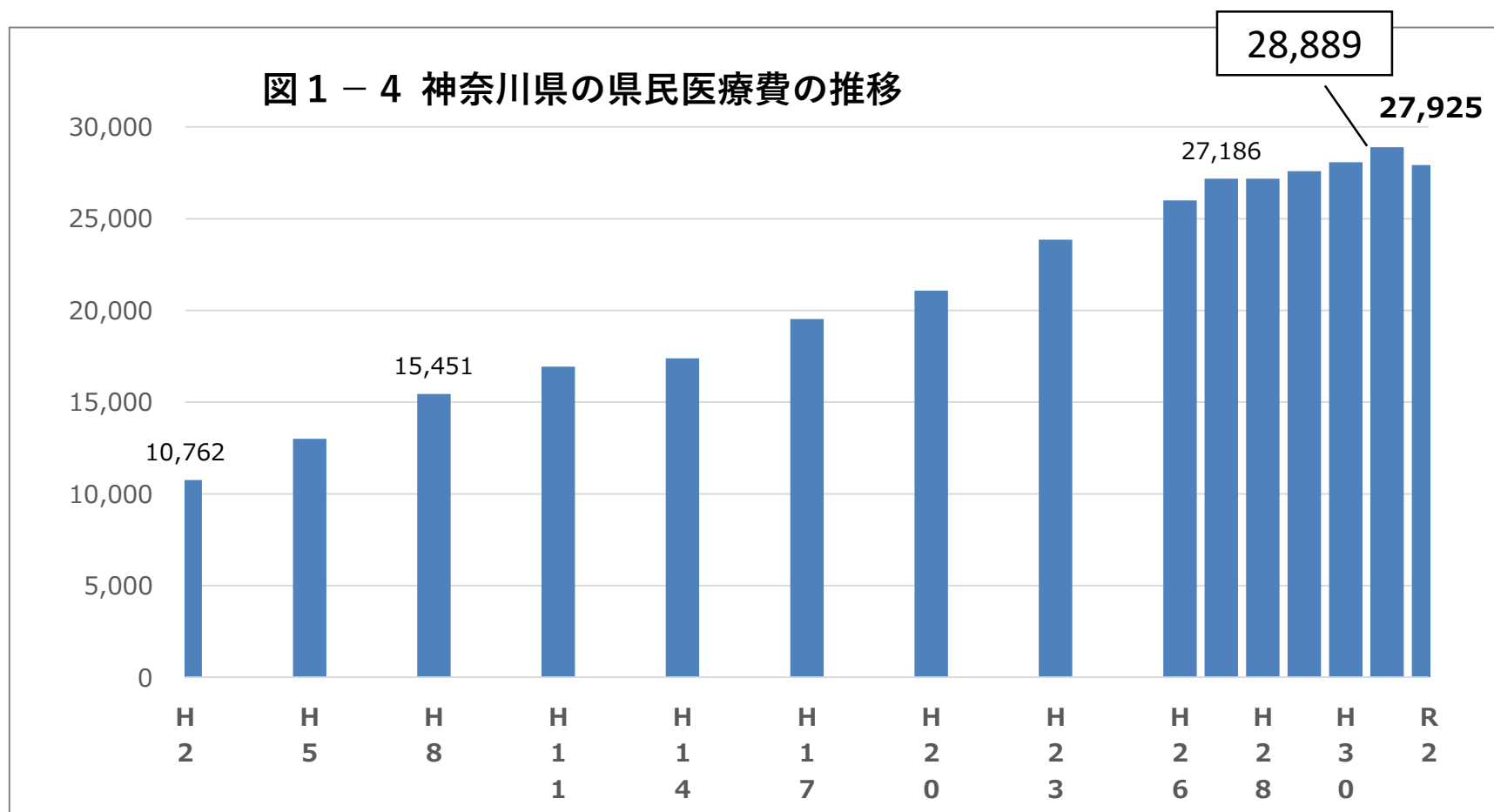
年齢階級別一人当たり国民医療費の推移を見ると、介護保険制度が導入された平成12年度（2000）に65歳以上の階級が減少したほかは、全ての年齢階級において、平成9年度（1997）以降、増加傾向にありました。

なお、令和2年度（2020）はいずれの年齢階級でも減少しました。

出典：【厚生労働省】国民医療費（平成2年～令和2年）

# 医療費の動向③

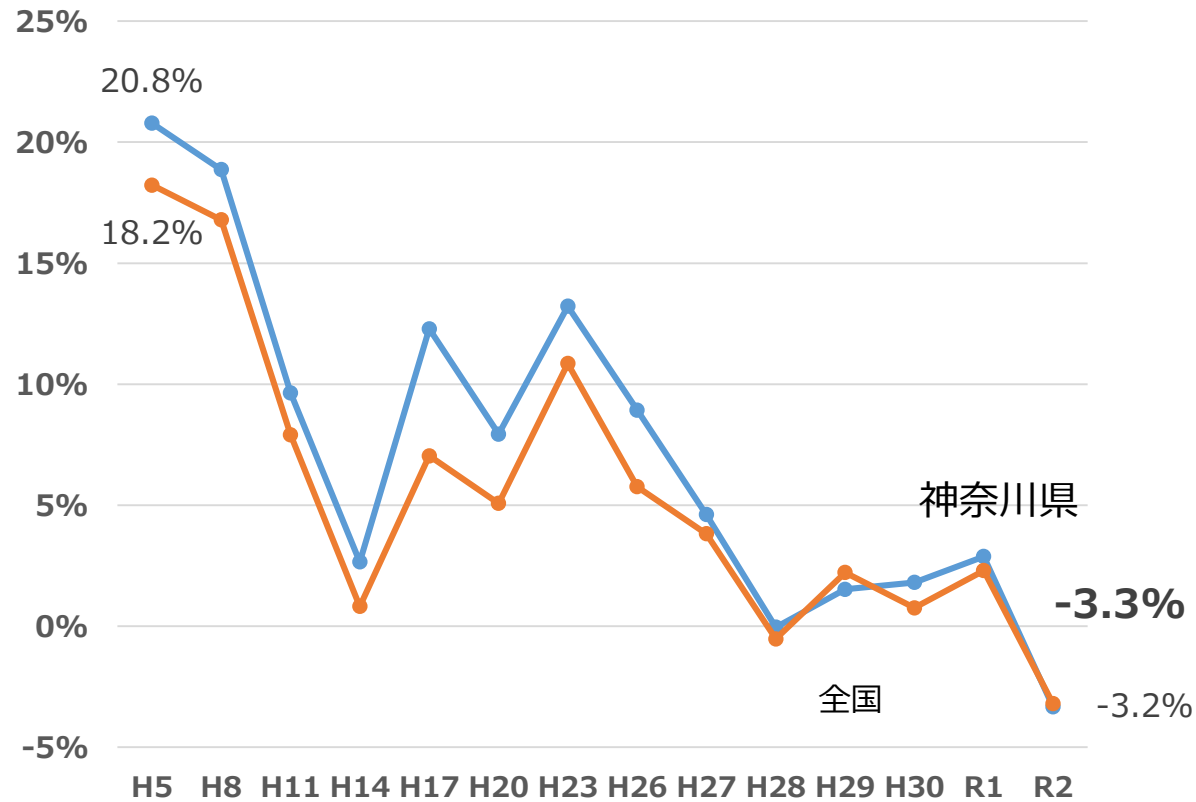
## (3) 神奈川県 of 県民医療費の推移



令和2年度(2020)の神奈川県 of 県民医療費は 2兆7,925億円です。令和2年度(2020)は減少しましたが、統計のある平成2年度(2010)以降、令和元年度(2019)まで、増加傾向が続いています。

# 医療費の動向④

## (4) 県民（国民）医療費伸び率の推移

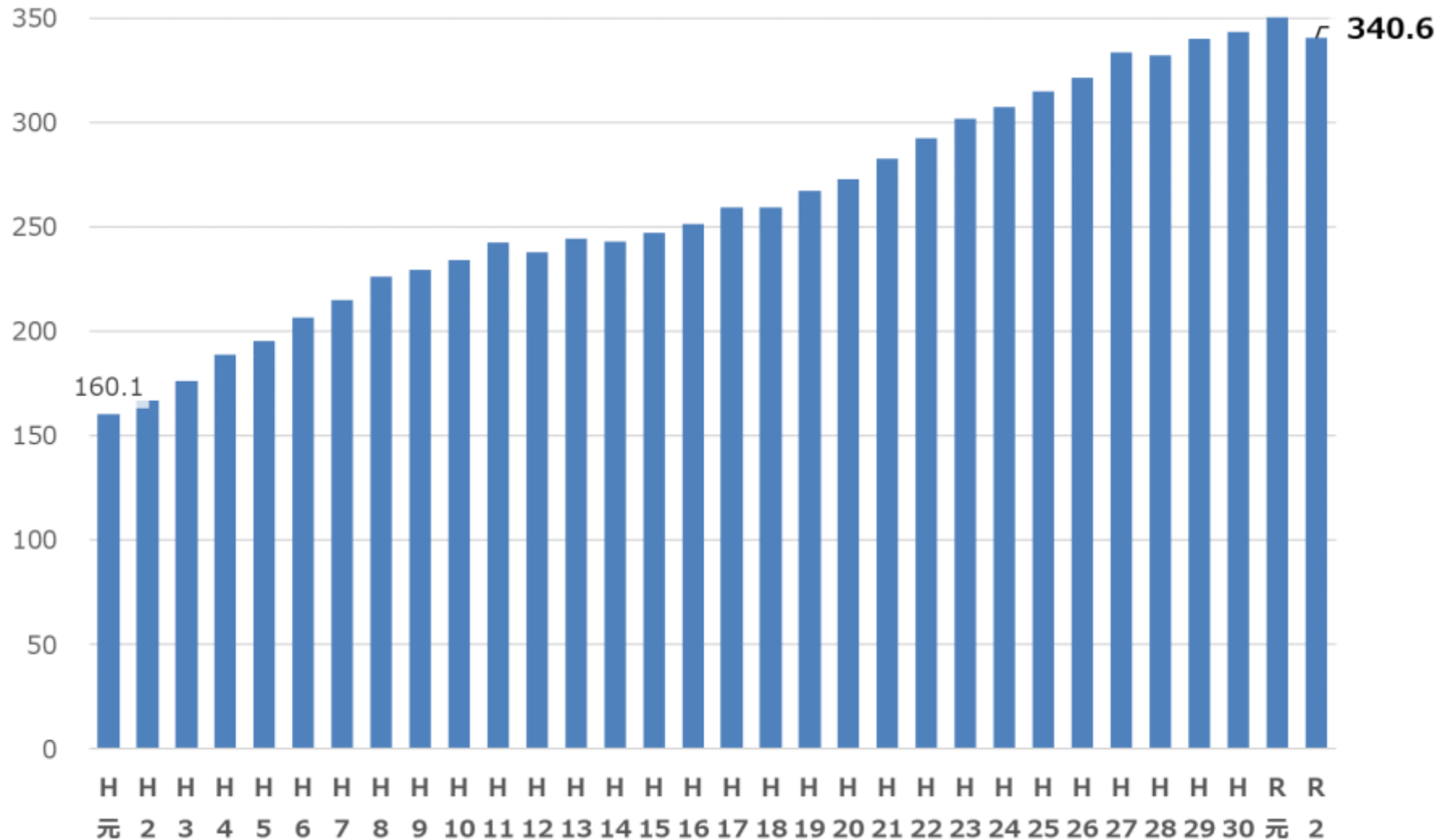


神奈川県は、県民医療費の3年前に対する伸び率（比）は、平成14年度（2002）にかけて低下していましたが、平成17年度（2005）から平成26年度（2014）にかけては、増加と減少を繰り返しています。

また、県民医療費の3年前に対する伸び率（比）は、平成29年度（2017）を除いた全ての年度で国民医療費の3年前に対する伸び率（比）を上回って推移しています。

# 医療費の動向⑤

## (5) 全国の一人当たり国民医療費の推移



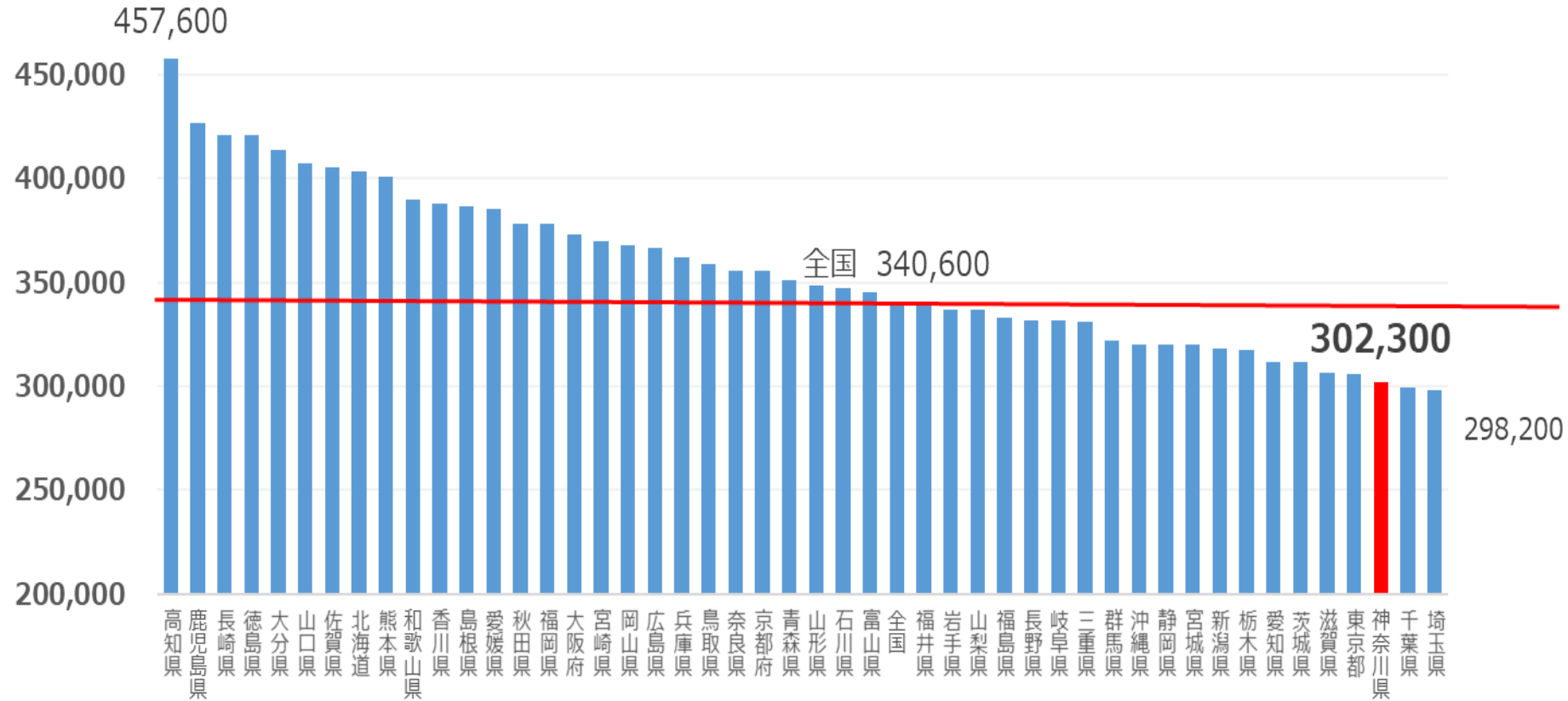
令和2年度  
(2020)の一人  
当たり国民医療  
費は、約34万円  
で、前年度より  
減少しましたが、  
平成元年度  
(1989)以降増  
加傾向が続いて  
います。



# 医療費の動向⑥

## (6) 都道府県別の一人当たり都道府県民医療費

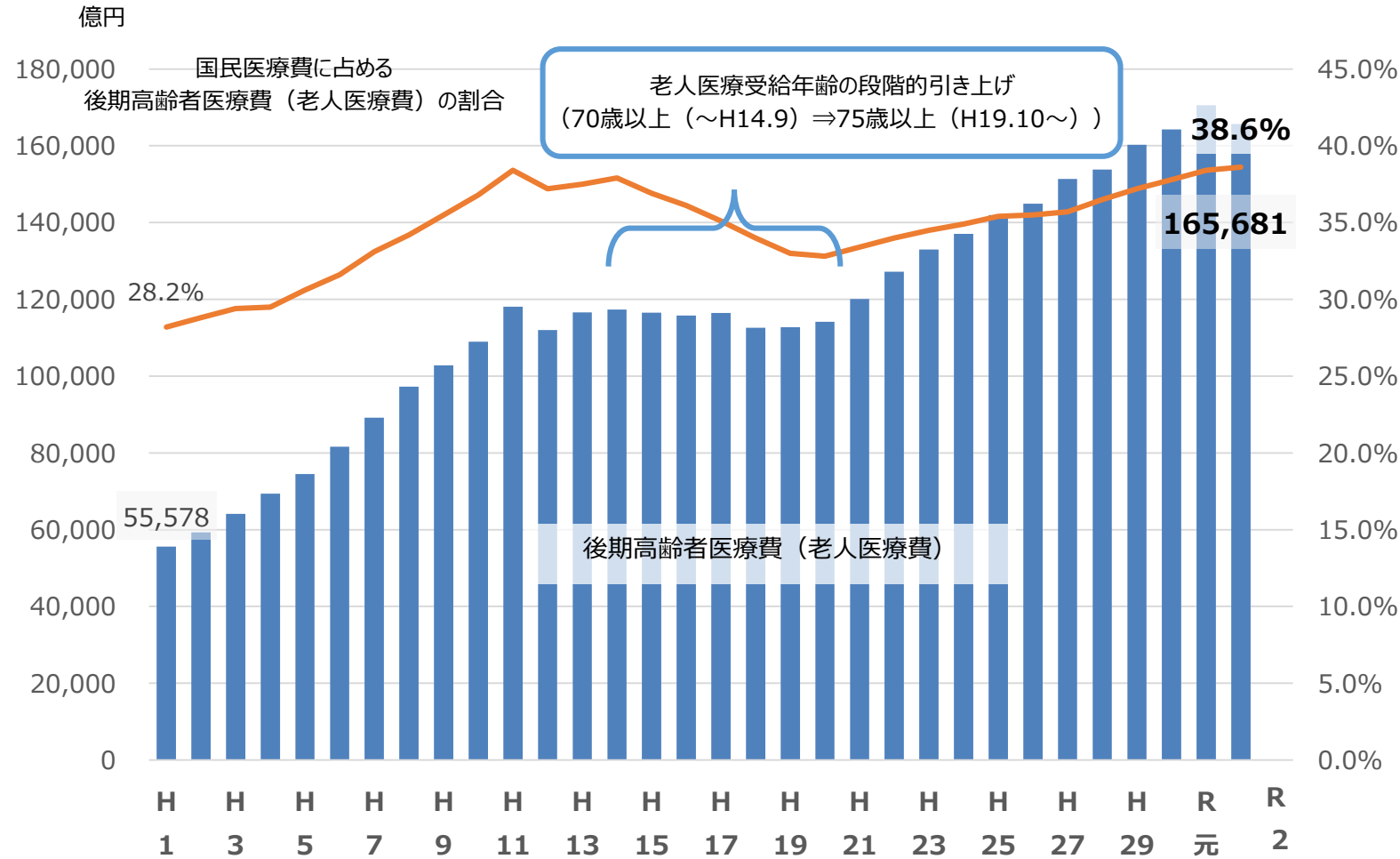
都道府県別の一人当たり都道府県民医療費



令和2年度  
(2020)の一人当たり県民医療費は、30万2,300円で全国の34万600円を下回っており、都道府県比較で低い方から3番目です。

# 医療費の動向⑦

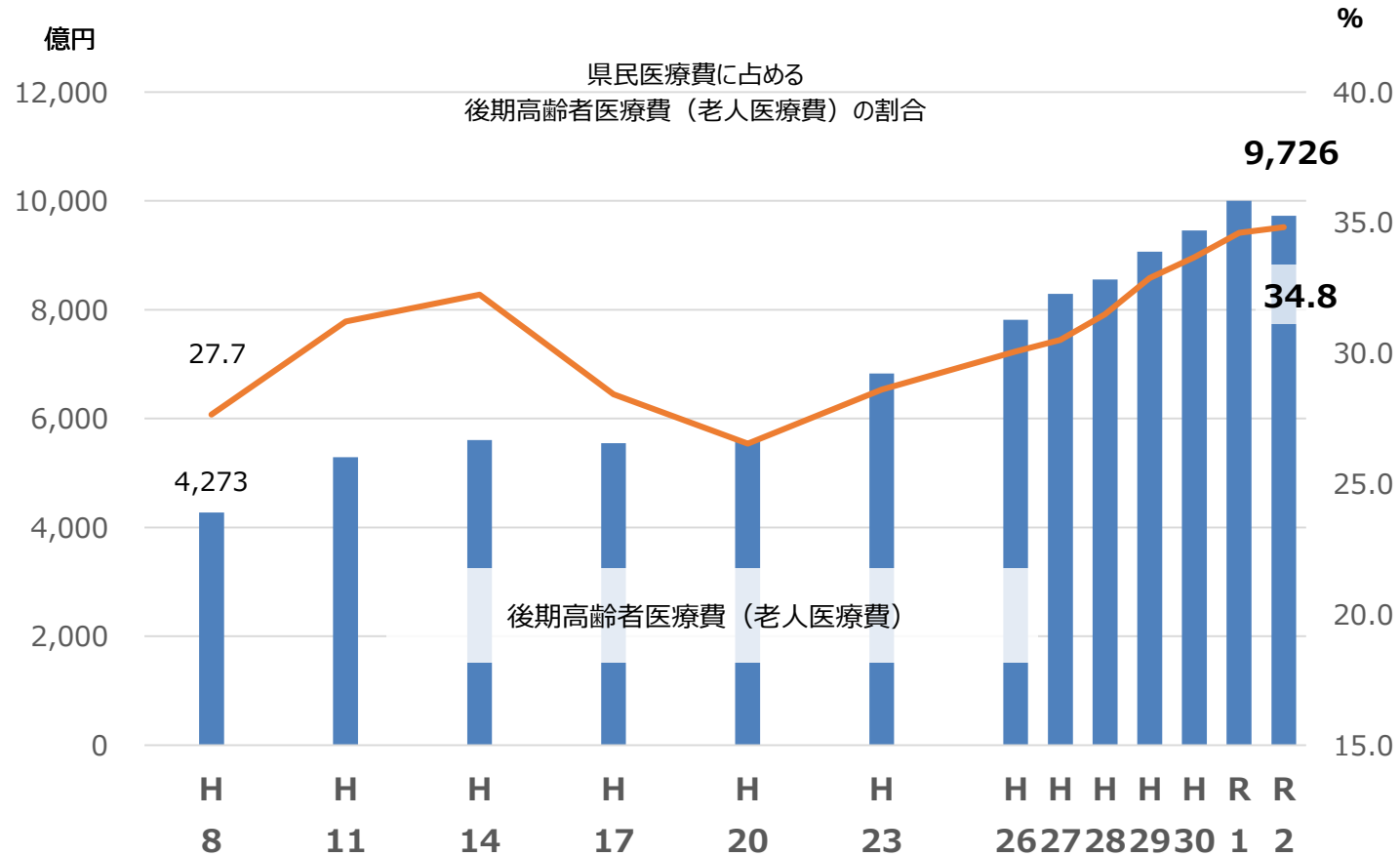
## (7) 全国の後期高齢者医療費



後期高齢者医療費（老人医療費）は介護保険制度の導入及び診療報酬のマイナス改定があった平成14年度（2002）からの老人医療受給対象年齢の段階的引き上げによる需給対象者の減少の影響を受け、平成12年度（2020）以降は国民医療費に占める割合が減少傾向にありましたが、平成21年度（2009）以降は増加傾向にあります。令和2年度（2020）は38.6%となっています。

# 医療費の動向⑧

## (8) 神奈川県の後期高齢者医療費



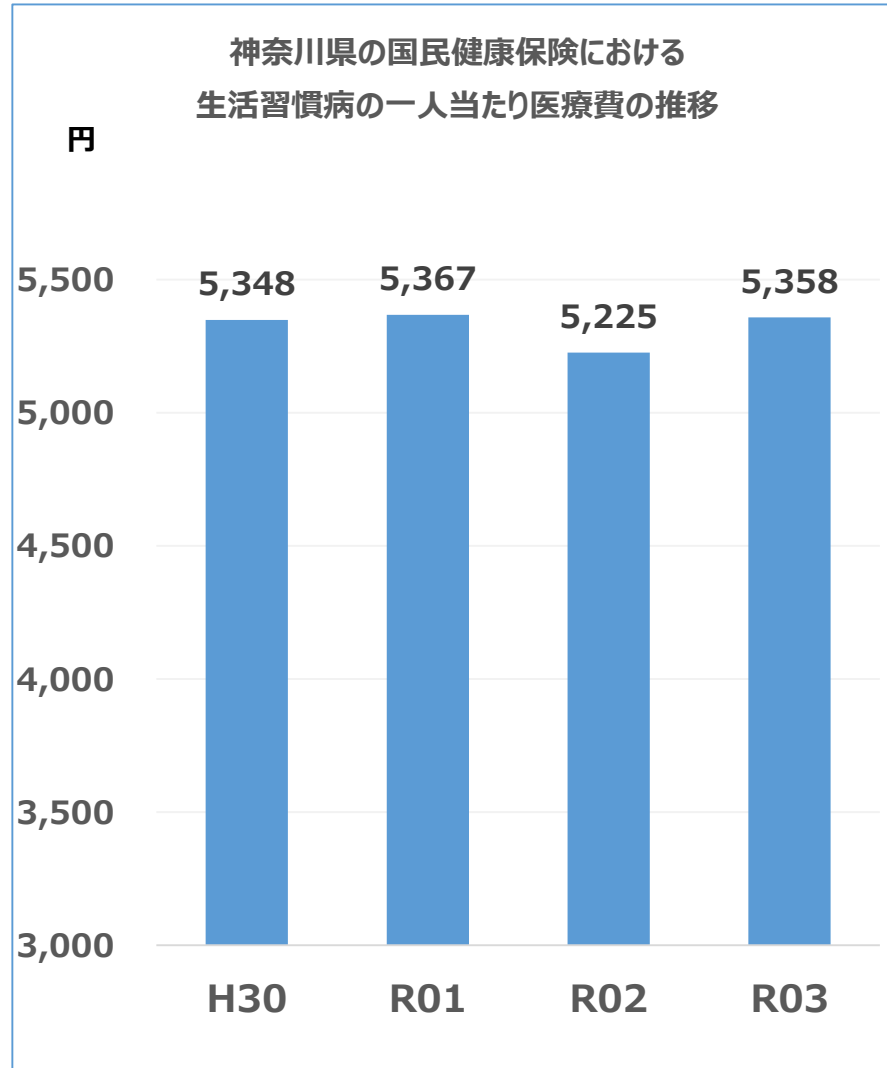
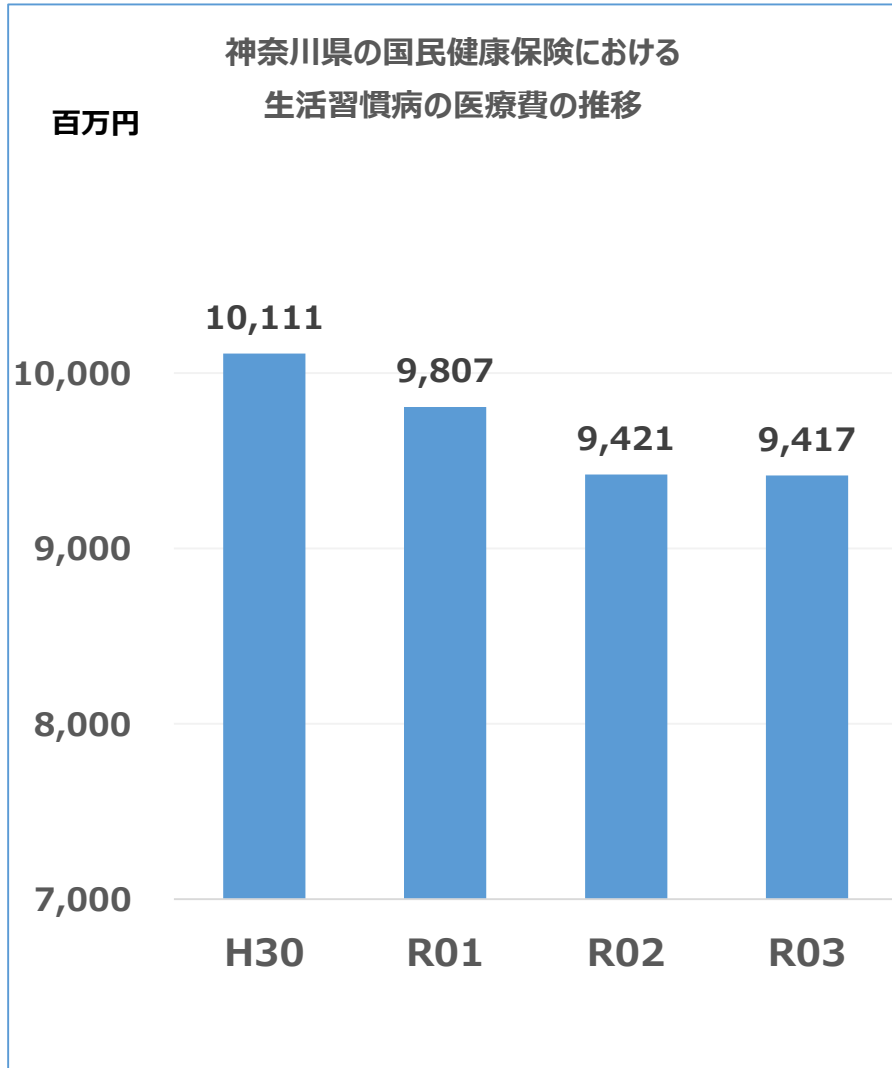
神奈川県の後期高齢者医療費（老人医療費）の県民医療費に占める割合は、平成14年度（2002）からの老人医療受給対象年齢の段階的引き上げによる需給対象者の減少の影響を受け、平成17（2005）、20年度（2008）と減少しました。しかし、平成20年度（2008）以降、再び増加し、令和2年度（2020）は34.8%となっています。

また、後期高齢者医療費（老人医療費）も令和元年度（2019）には1兆円に達しています。

出典：【厚生労働省】国民医療費、老人医療事業年報、後期高齢者医療事業年報

# 医療費の動向⑨

## (9) 神奈川県国民健康保険における生活習慣病の医療費



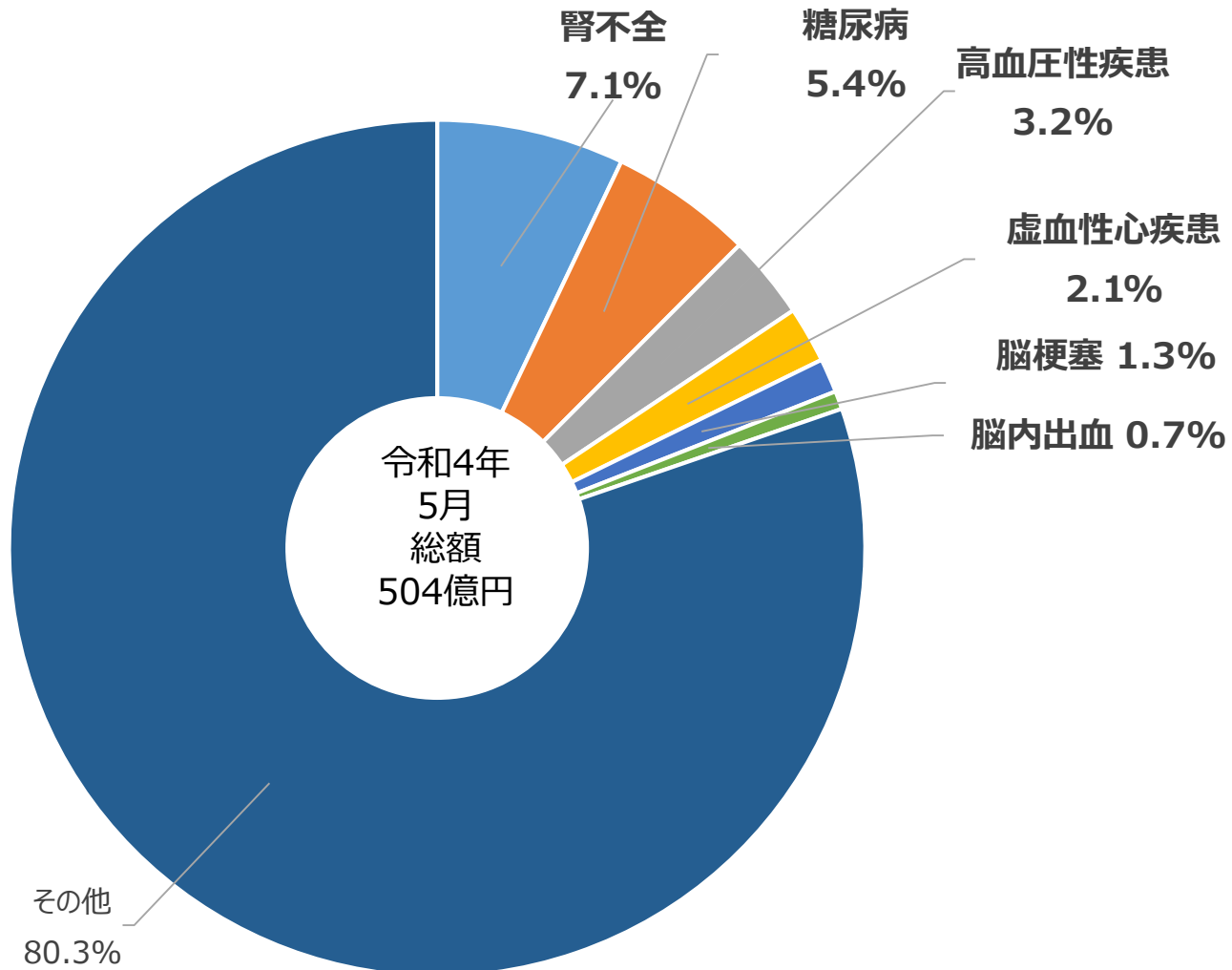
神奈川県国民健康保険における生活習慣病の医療費は、減少傾向にあります。

また、生活習慣病の一人当たりの医療費を見ると、概ね5,300円台で推移しています。

出典：国保データベースシステム

# 医療費の動向⑩

(10) 神奈川県内の121分類を中心にした費用額構成（国民健康保険）

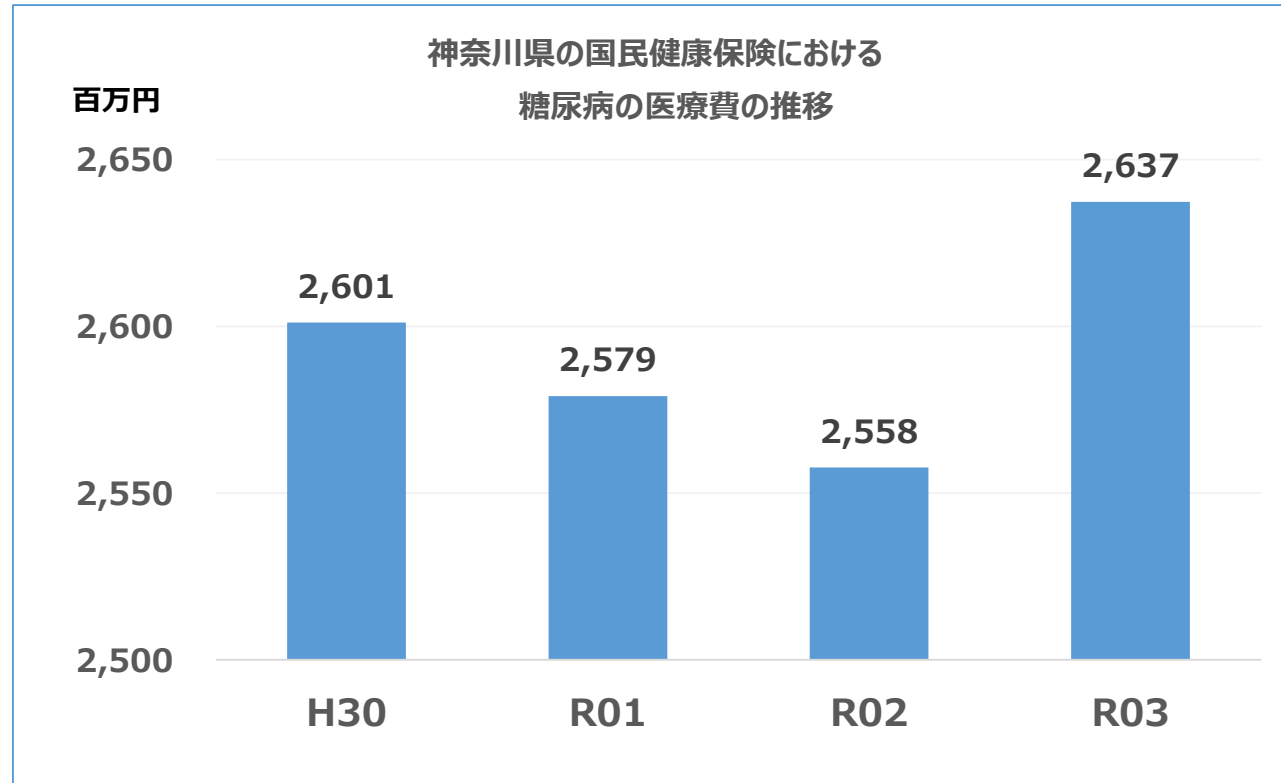


神奈川県内の国民健康保険における121分類の疾病別費用額を見ると、腎不全、糖尿病、高血圧性疾患、虚血性心疾患、脳梗塞、脳内出血など生活習慣と関連深い疾患が全体の5分の1を占めております。

出典：国保データベースシステム

# 医療費の動向⑪

## (11) 神奈川県国民健康保険における糖尿病の医療費



神奈川県国民健康保険における糖尿病の医療費は、約26億円で推移しております。

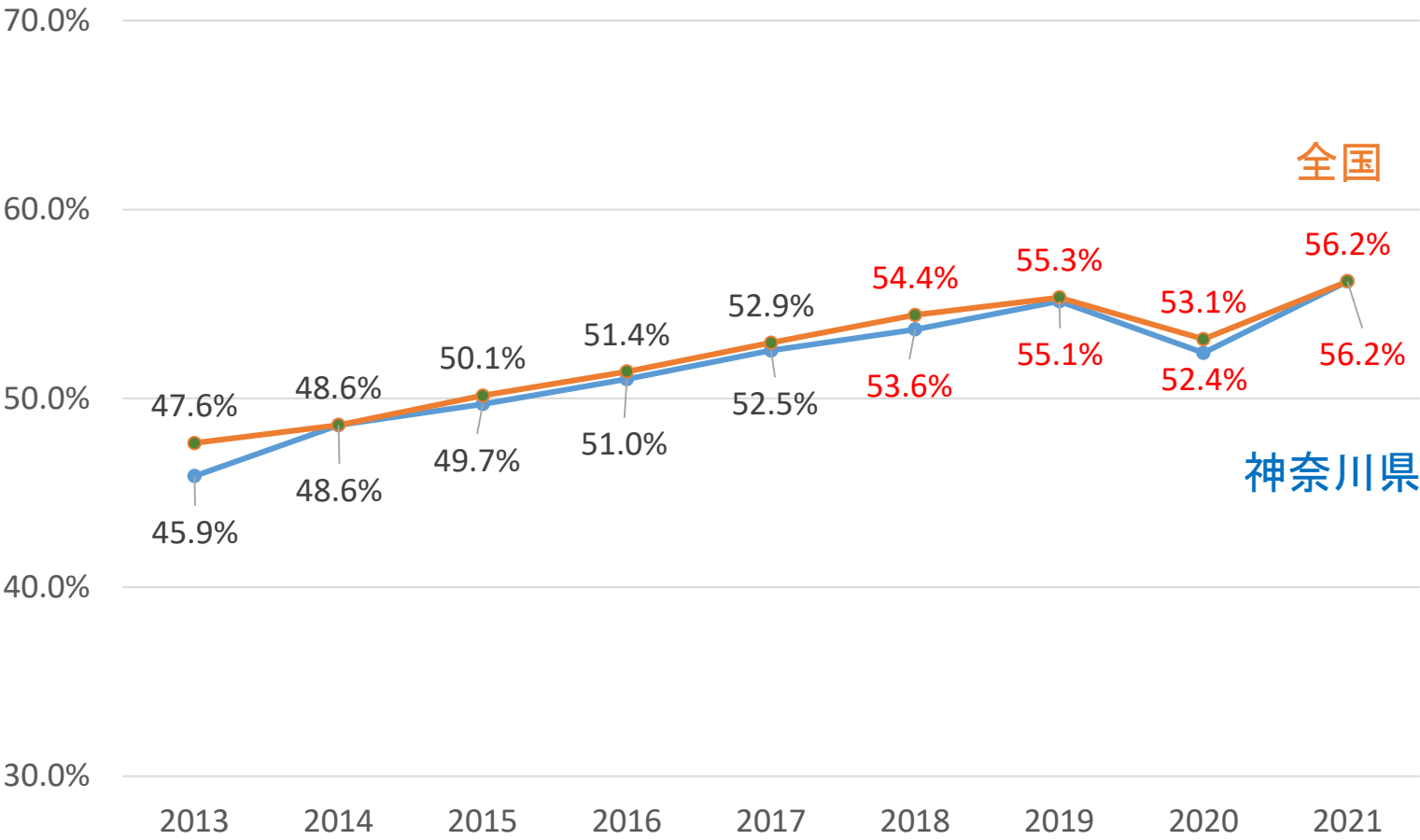
令和3年度（2021）は新型コロナウイルス感染症の受診控えの反動か前年度より上昇しております。

## 2 各目標値の現状について

# 特定健康診査の実施率について①

## 【目標値 70%以上】

### (1) 前年度との比較・全国との比較（実績値の推移）



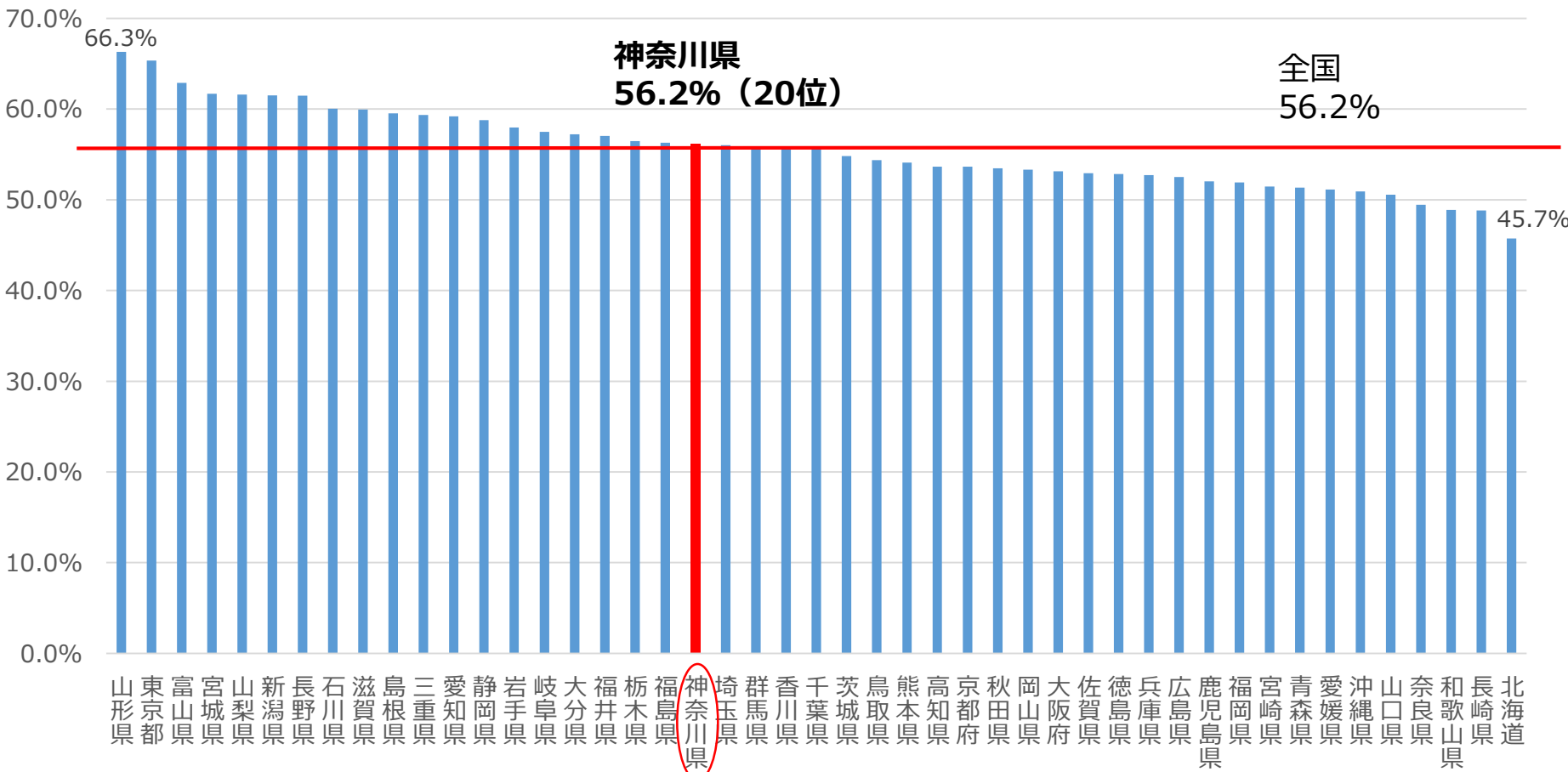
・ 特定健康診査の実施率は上昇傾向であり、全国平均からは僅かに下回って推移していたが、2021年度全国平均と同値となった。

・ 目標値の70%以上に対しては乖離があり、引き続き実施率の向上に向けて取組を進めていく必要がある。

出典：【厚生労働省】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況



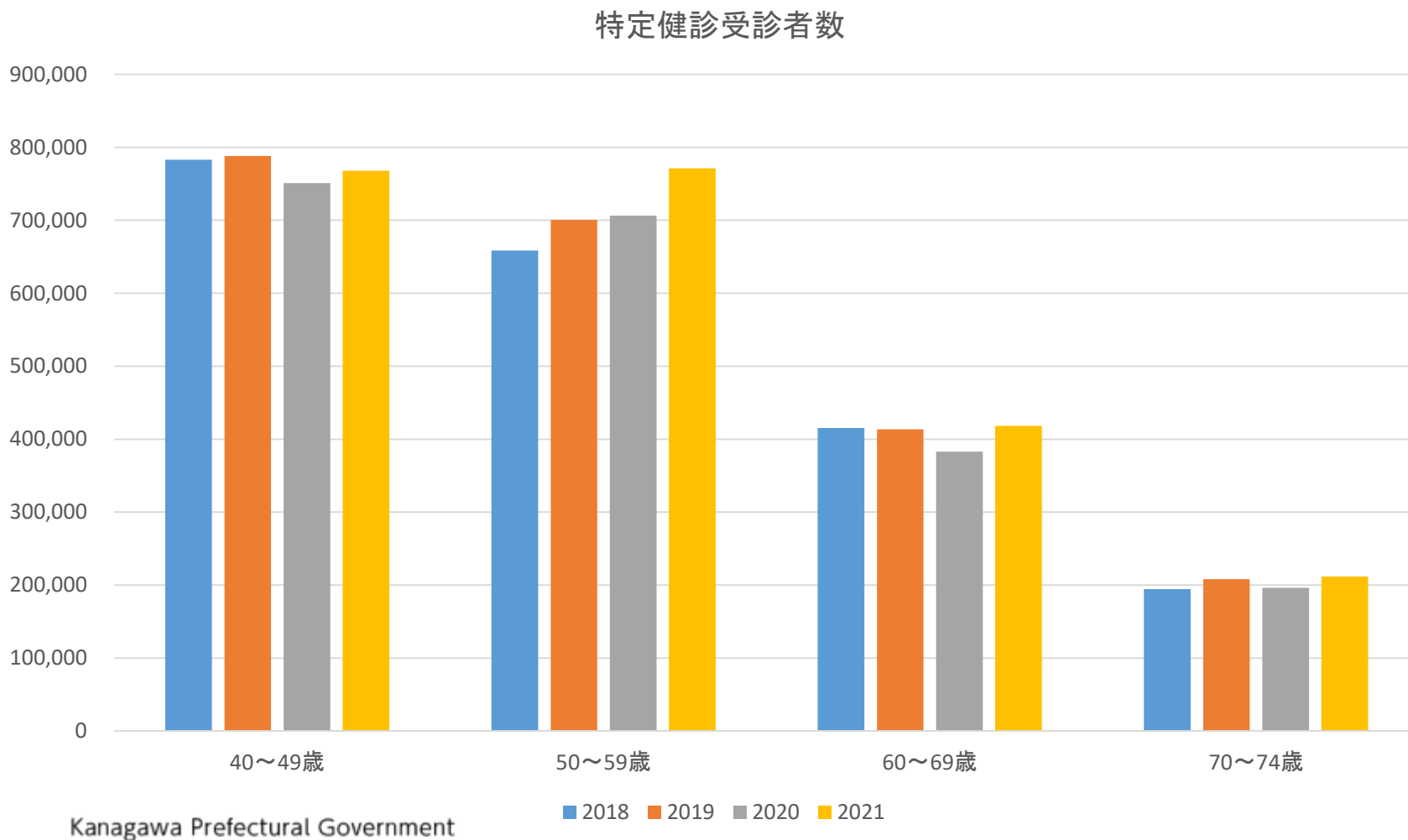
(2) 他都道府県との比較 (2021年度)



・ 特定健康診査の実施率は、2013年度までは全国を下回っていたが、2014年度には全国とほぼ同値になり、2021年度の実施率は、全国20位である。

・ 特定健康診査は、市町村国民健康保険の加入者を中心に実施率が伸び悩んでいる。

## (3) 年代別実施者数 (経年変化)



・全保険者で見ると、40～59歳の年齢層の受診者が多い。

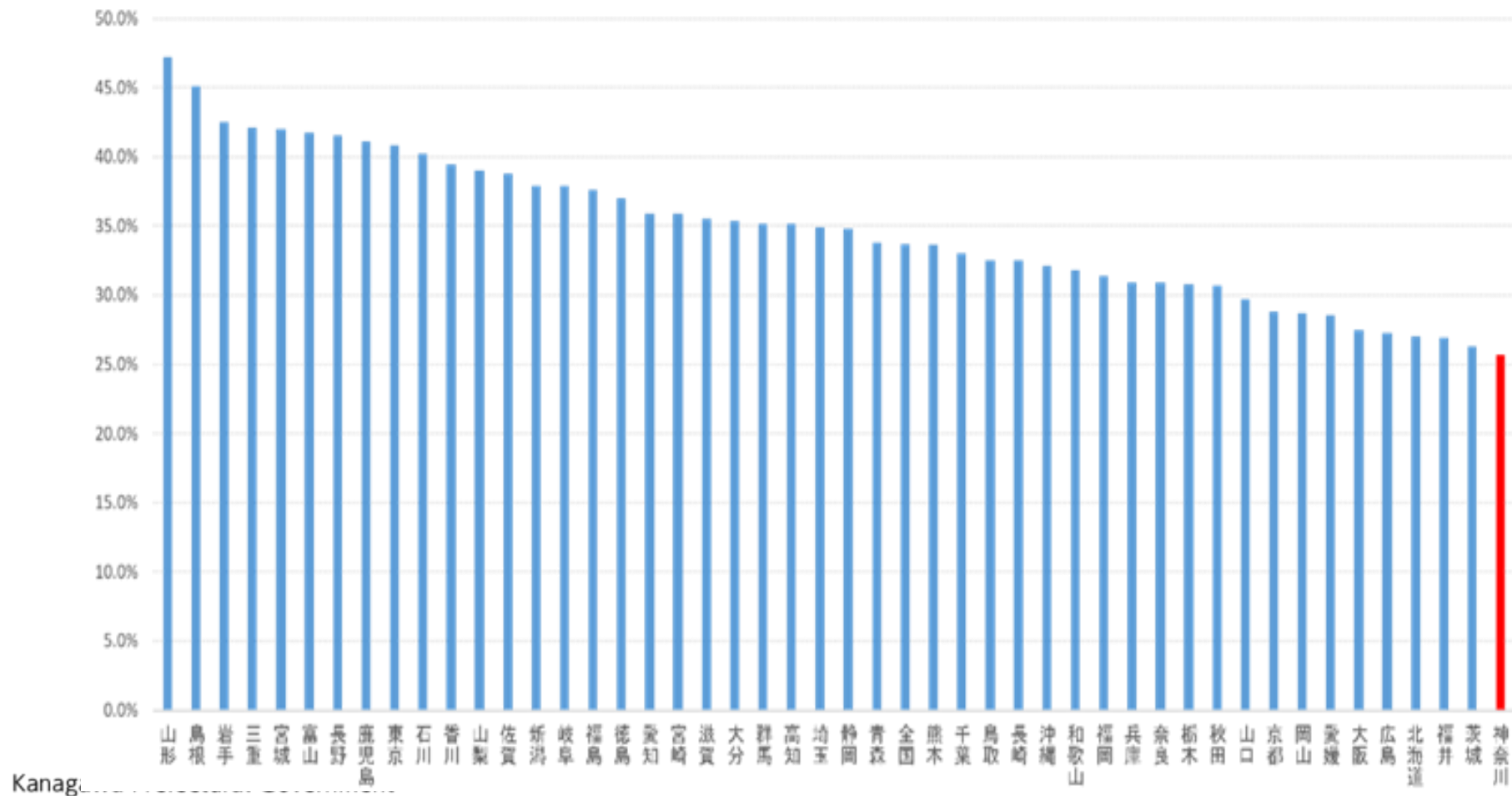
・50～59歳の受診者数が近年上昇傾向にある。

# 特定健康診査の実施率について④

【目標値 70%以上】

## (4) 神奈川県国保の特定健康診査の実施率

### ① 全国における神奈川県国保の実施率



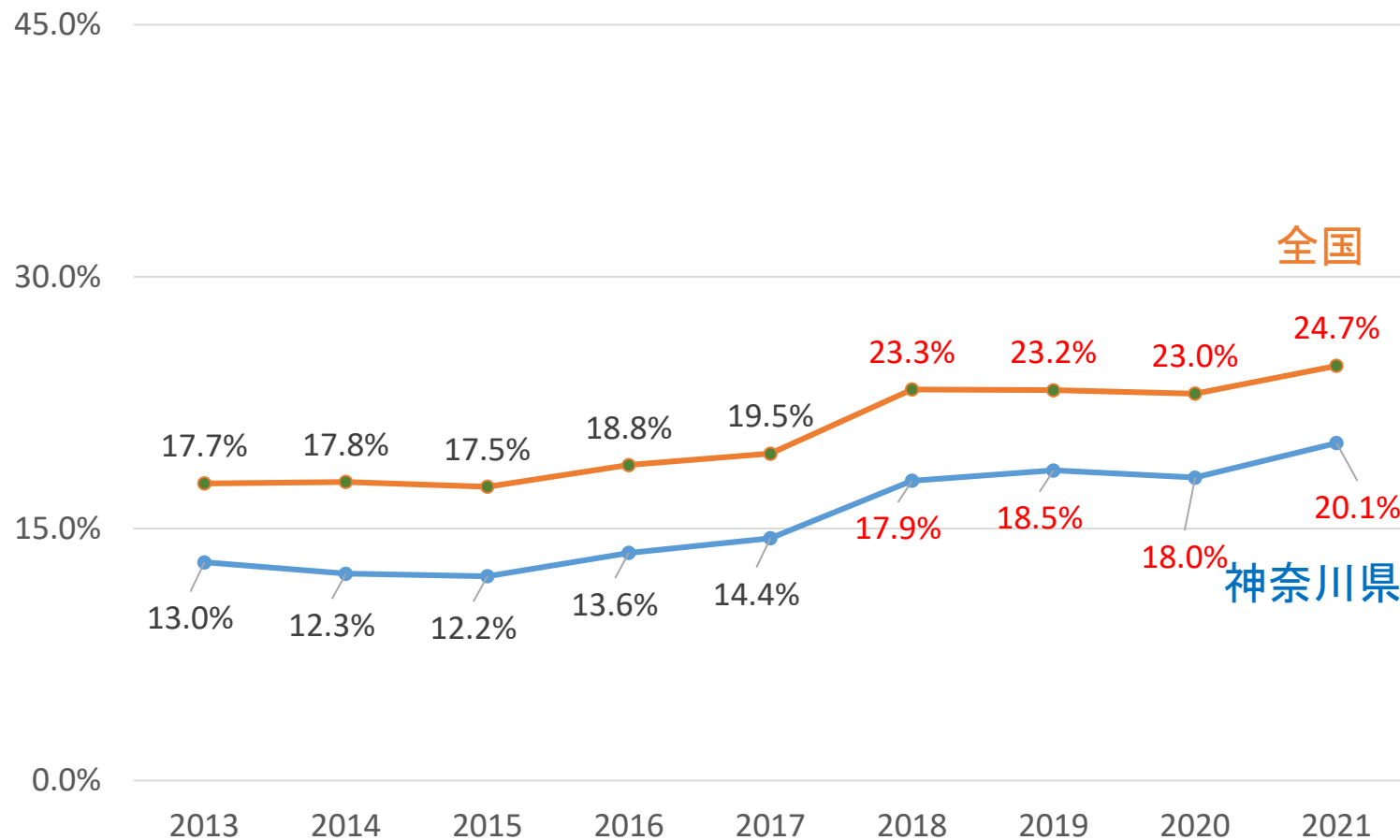
・ 神奈川県国保の特定健康診査の2020年度の実施率は、全国最下位です。

・ なお、コロナ禍により2020年度の全国の実施率は4.3%減少し、神奈川県も3.1%減少しています。

# 特定保健指導の実施率について①

## 【目標値 45%以上】

### (1) 前年度との比較・全国との比較（実績値の推移）



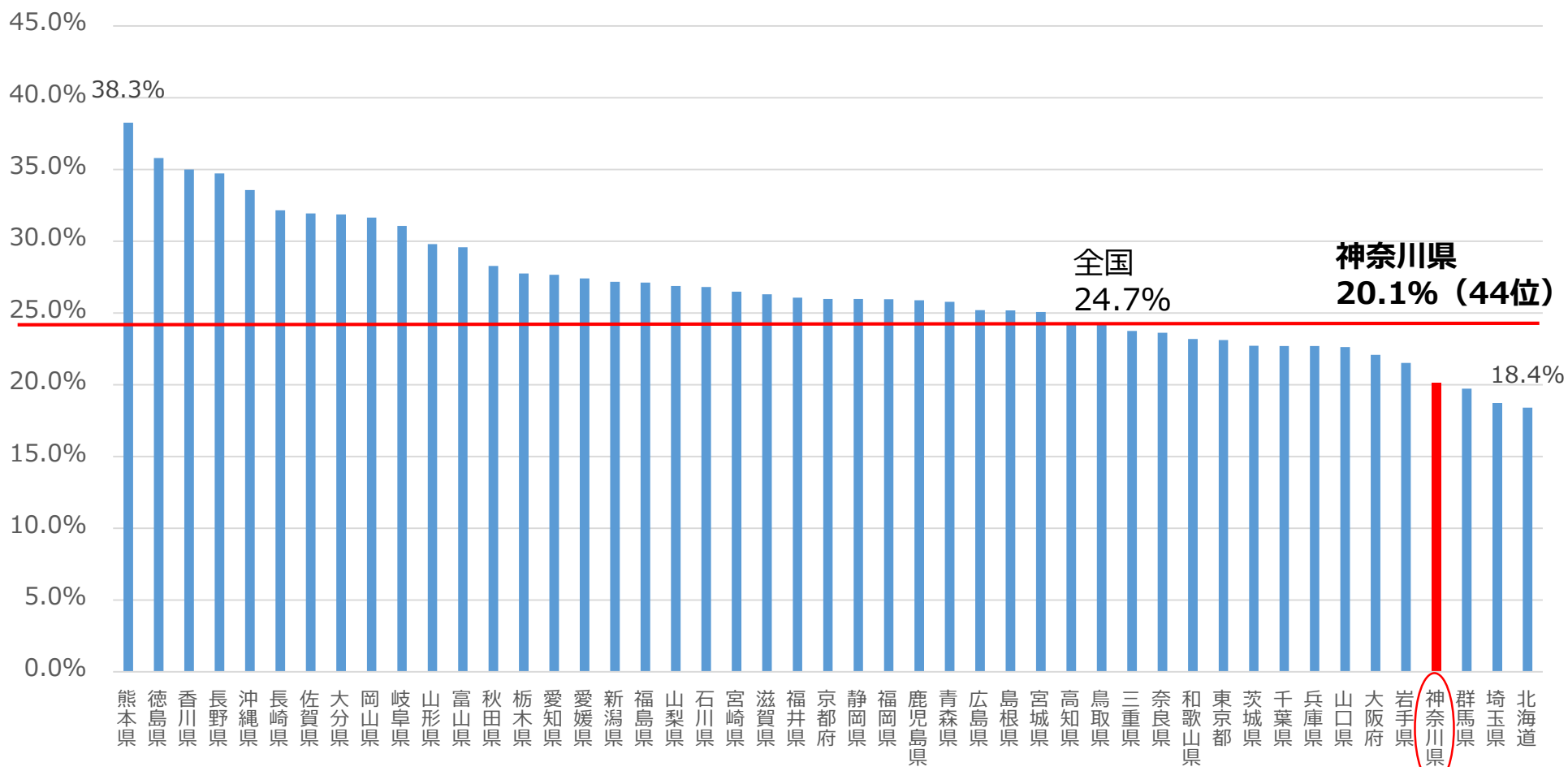
・ 特定保健指導の実施率は上昇傾向ですが、全国平均との差は横ばいである。

・ なお2020年度はコロナ禍で、対面による保健指導の実施が難しかったため、全国同様実施率がわずかに下がっている。

・ 目標値の45%以上に対しては大きな乖離があり、引き続き実施率の向上に向けて更なる取組を進めていく必要がある。

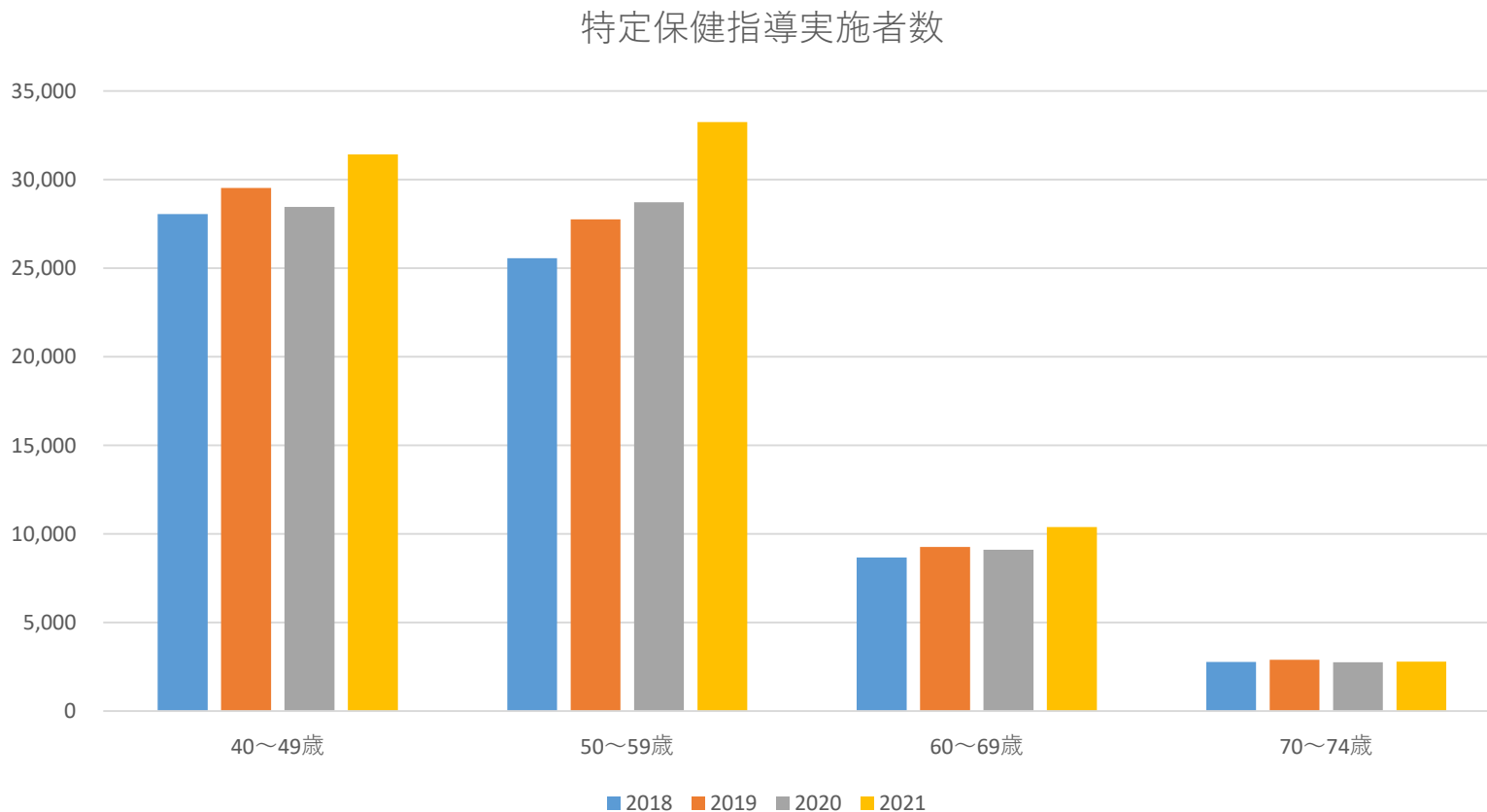
出典：【厚生労働省】特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況

## (2) 他都道府県との比較 (2021年度)



・ 特定保健指導の2021年度の実施率は、全国44位となっており、特定保健指導の実施率向上に向けた取組が引き続き求められている。

## (3) 年代別実施者数（経年変化）

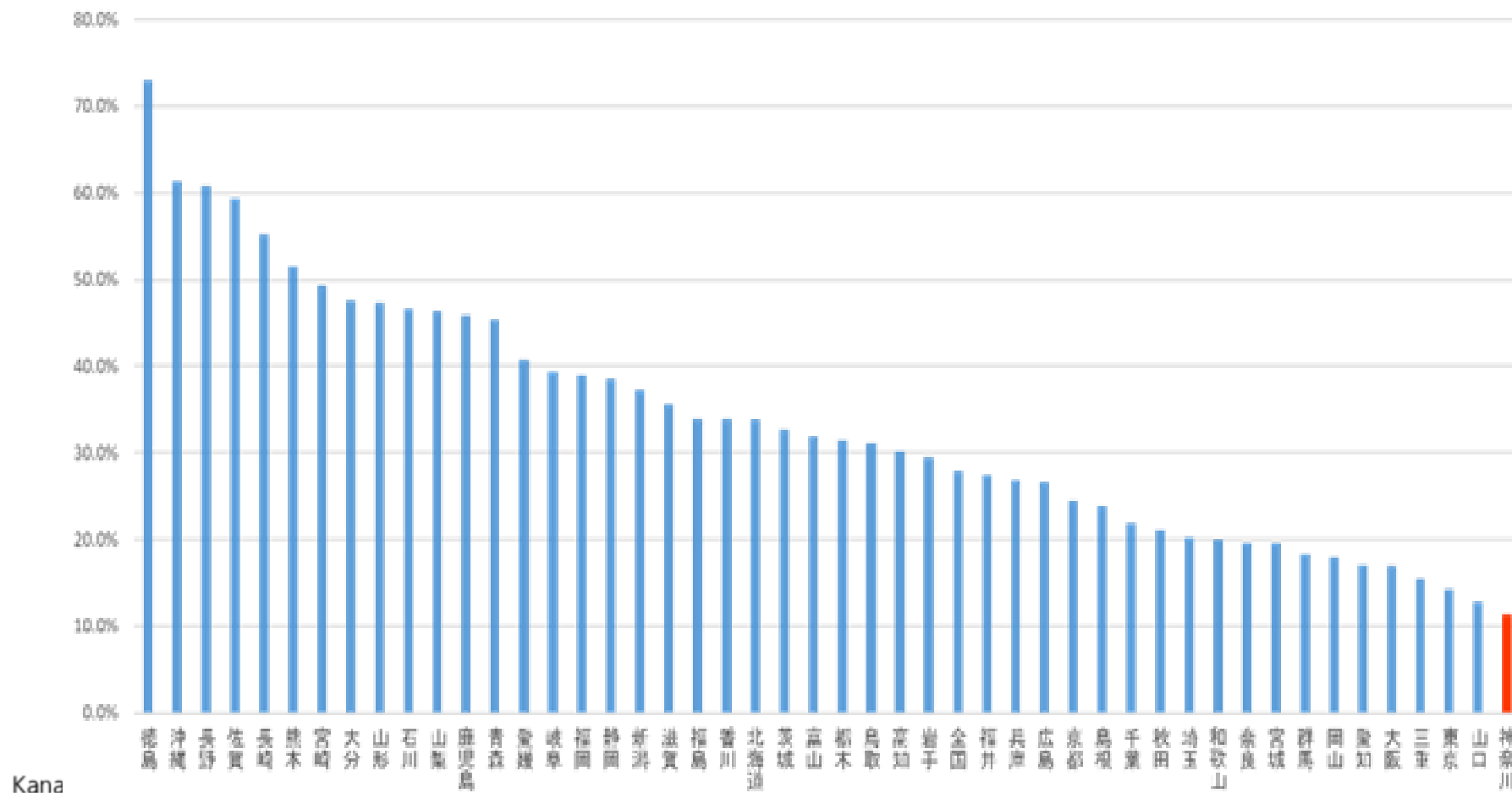


・全保険者で見ると、40～59歳の実施者数が多い。

・50～59歳の実施者数が近年上昇傾向にある。

## (4) 神奈川県国保の特定保健指導の実施率

### ① 全国における神奈川県国保の実施率

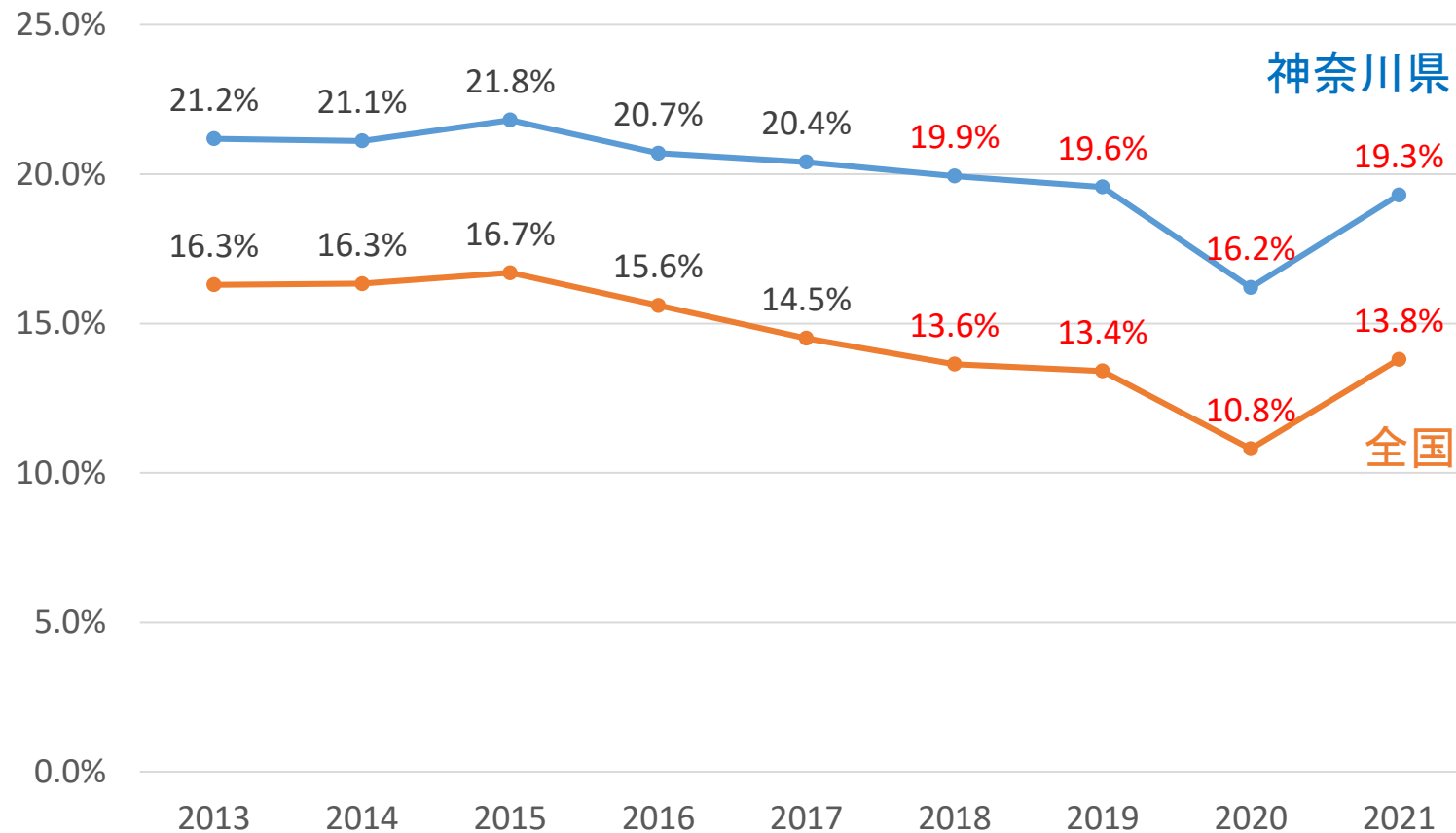


・神奈川県国保の特定保健指導の令和2年度の実施率は、全国最下位です。

・なお、コロナ禍により令和2年度の全国の実施率は1.4%減少し、神奈川県も0.3%減少しています。

# メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について① 【目標値 平成20年度比25%以上】

## （1）前年度との比較・全国との比較（実績値の推移）



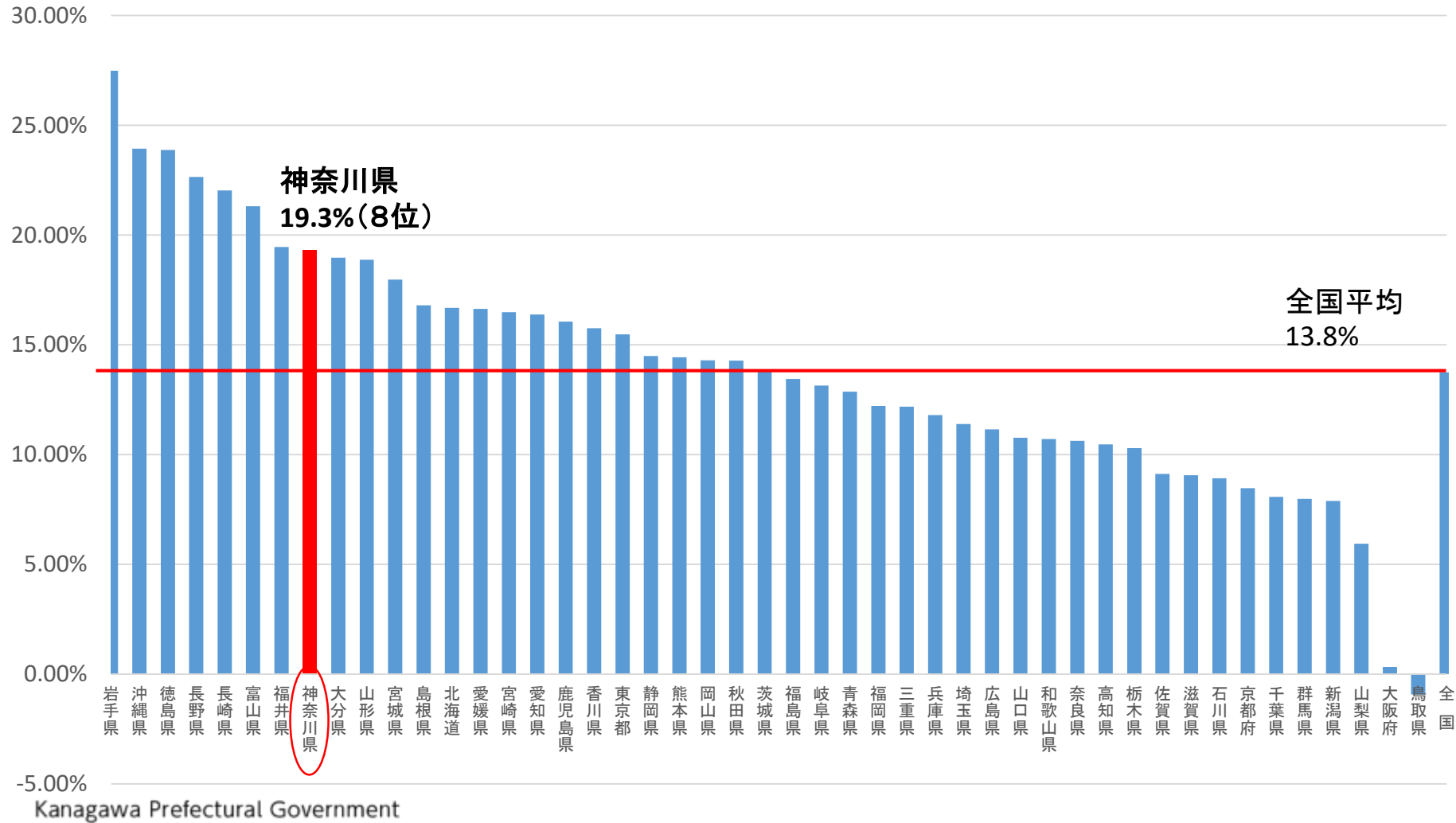
・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率は、伸び悩んでいます。全国よりは高い水準で推移している。

・2020年度の減少率は、コロナ禍による特定健診の受診控え等の影響もあり、減少率が大きく下がったが、2021年度は全国同様上がった。



# メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について② 【目標値 平成20年度比25%以上】

## (2) 他都道府県との比較（2021年度）

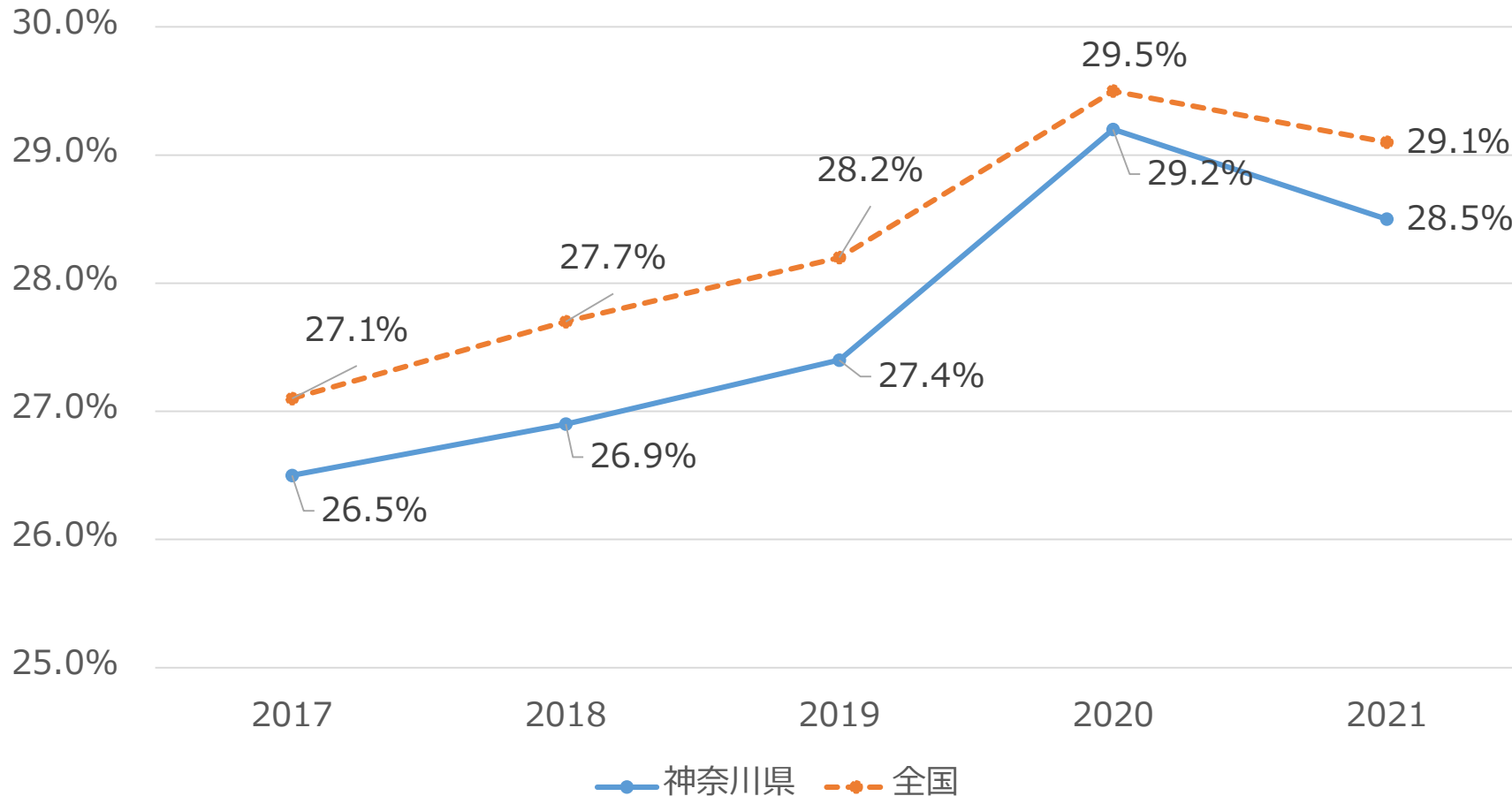


・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率は、全国で平均より高い数値を達成している。

出典：【厚生労働省】メタボ減少率推計シートより推計

# メタボリックシンドロームの該当者及び予備群（特定保健指導対象者）の減少率について③ 【目標値 平成20年度比25%以上】

## (3) メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合（前年度比・全国比）



・ 該当者及び予備群の割合は全国・神奈川県ともに増加傾向にある。神奈川県は全国平均と比べ、低い水準となっている。

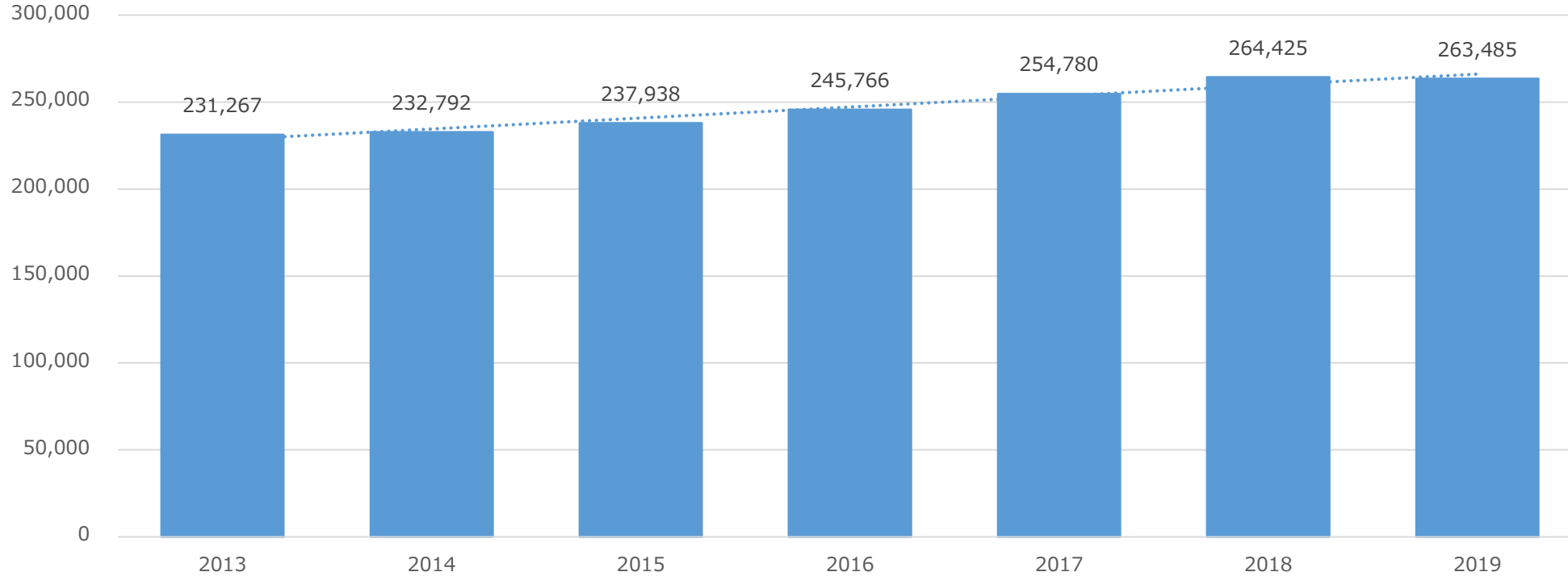
・ 2021年度は28.5%と前年度比で0.7%の減少となっている。

# 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について①

【目標値】 糖尿病有病者数の増加の抑制 22万人

(1) 前年度との比較（実績値の推移）

特定健診結果より糖尿病基準に該当する者の割合から算出



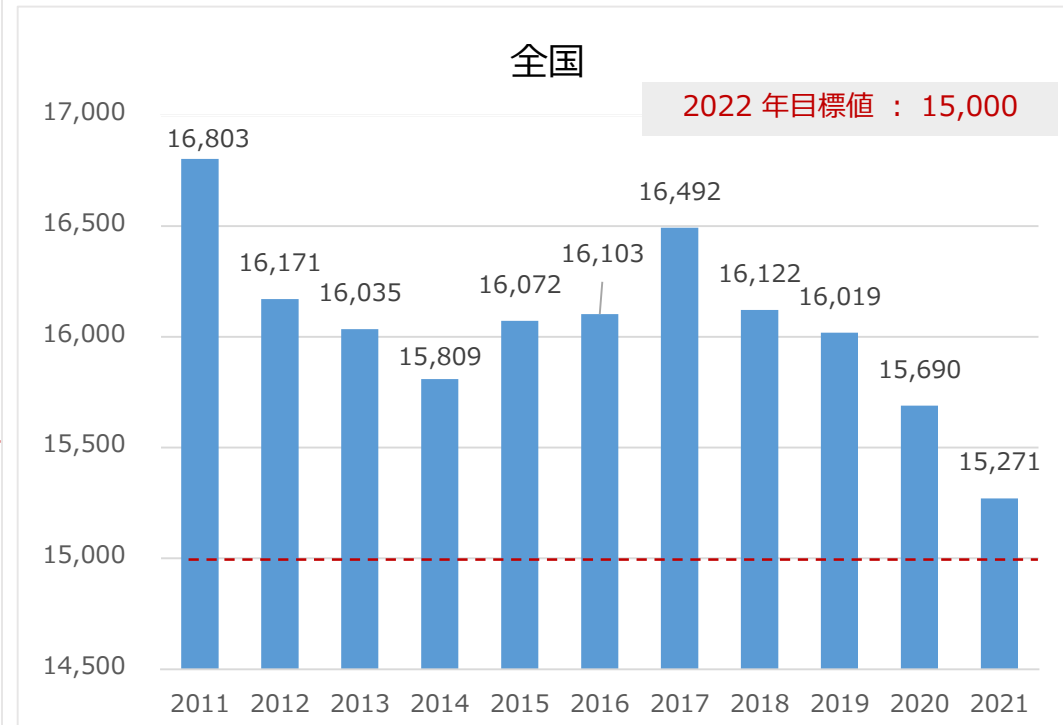
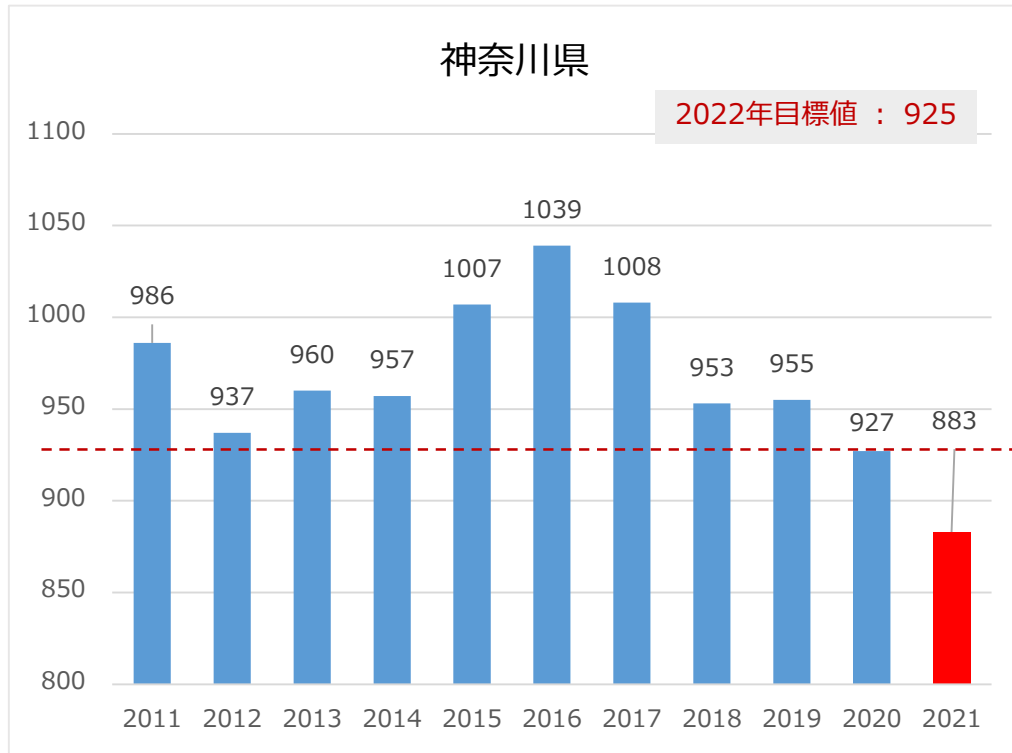
・ 健診の結果、糖尿病基準に該当する者は増加傾向にある。2019年度は増加が抑制された。

全国のデータはなく、比較できない。

# 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について②

【目標値】 糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数の減少 925人

(1-1) 前年度との比較・全国との比較（実績値の推移）

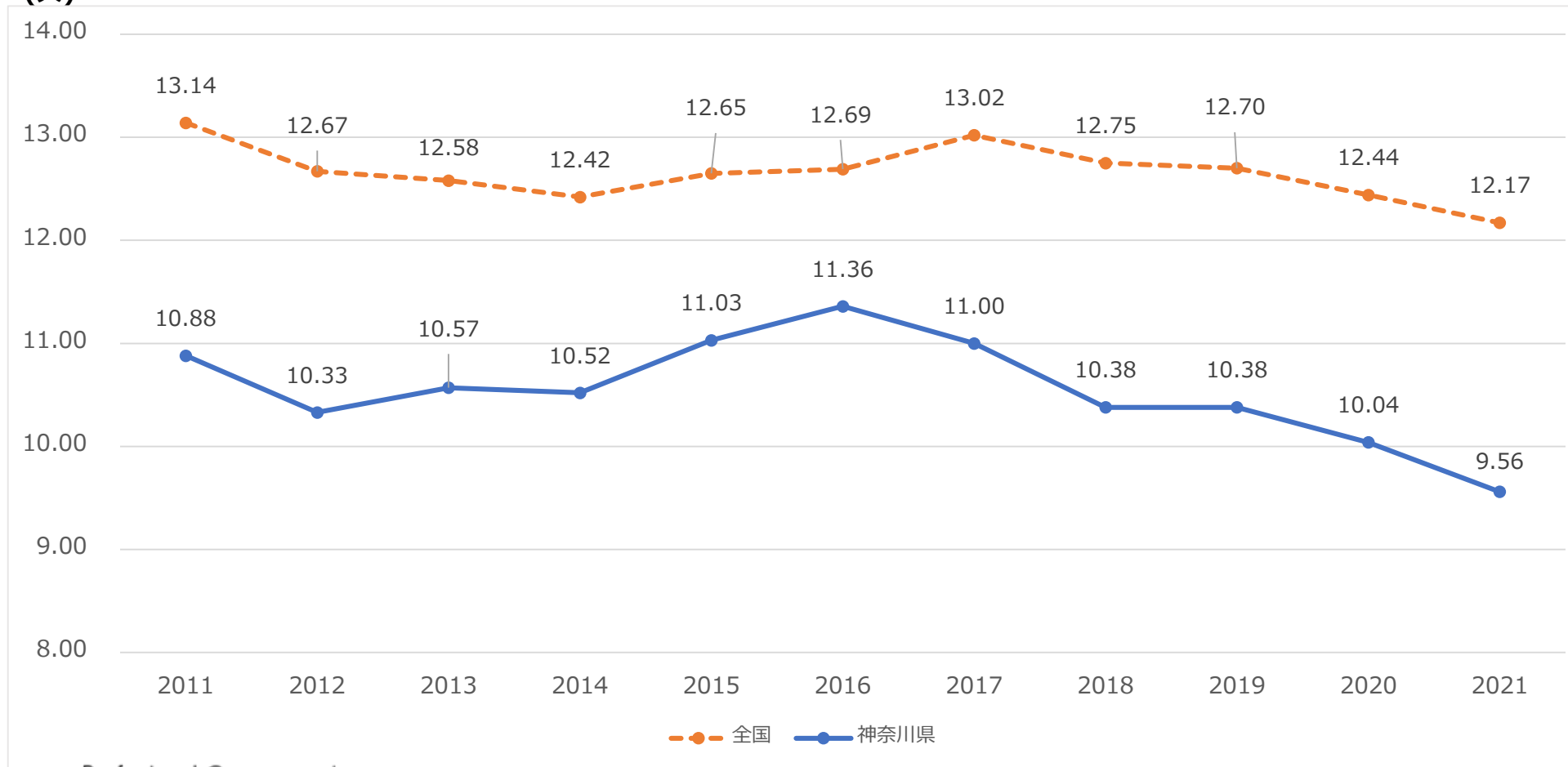


- ・神奈川県は新規透析導入患者数は減少傾向にあり、目標値を達成している。
- ・全国も目標値達成に近づいており、減少傾向にある。

# 生活習慣病（糖尿病）の重症化予防について③

【目標値】糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数の減少 925人

(1 - 2) 前年度との比較・全国との比較（実績値の推移） 人口10万人対の患者数（人）

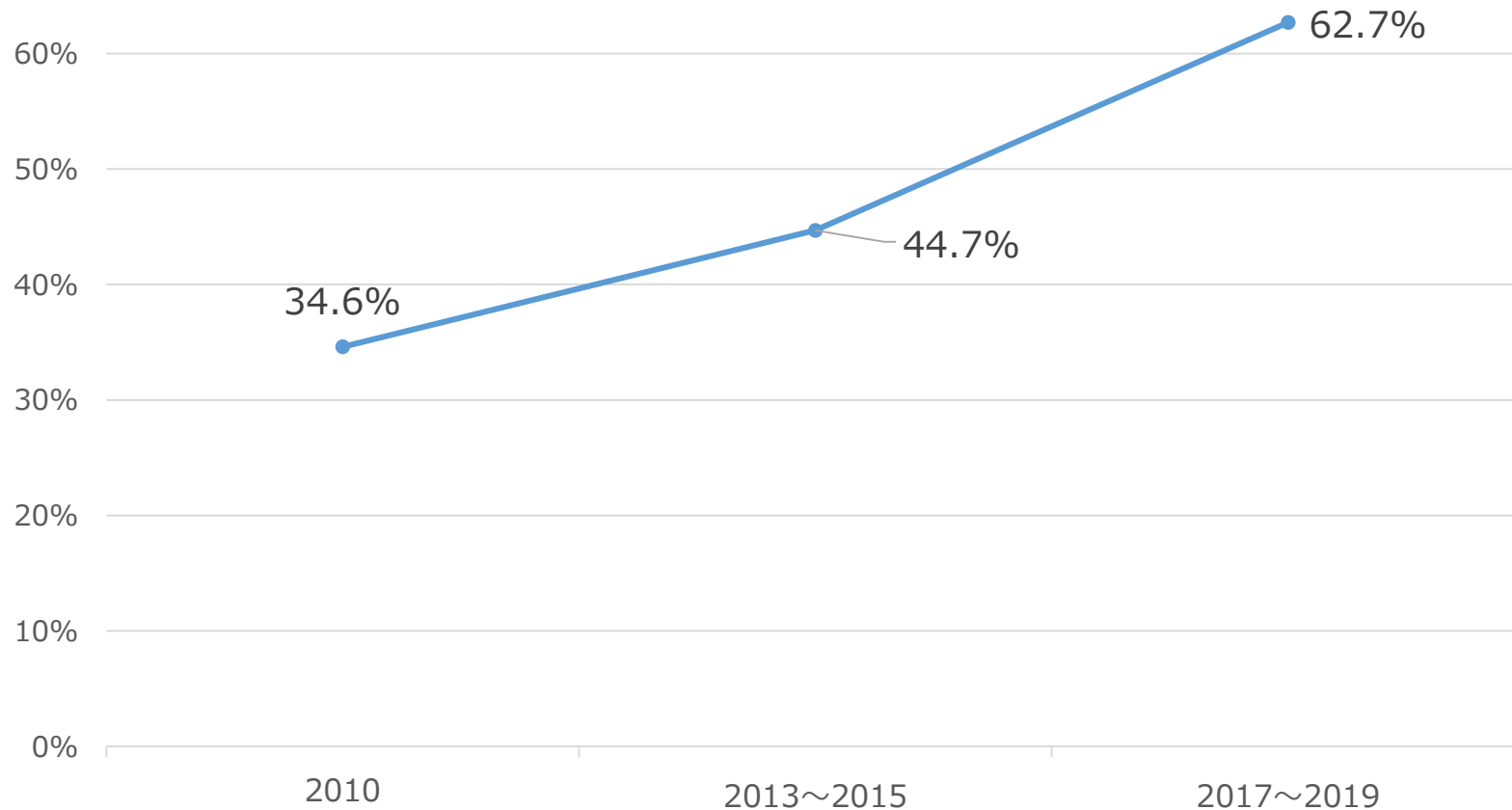


2016年度より神奈川県は減少傾向にあり、また全国と比較しても患者数は低い水準で推移している。

# 歯及び口腔の健康づくりについて

【目標値】 80歳（75～84歳）で自分の歯を20本以上持つ人の割合 65%以上

(1) 前年度との比較（実績値の推移）



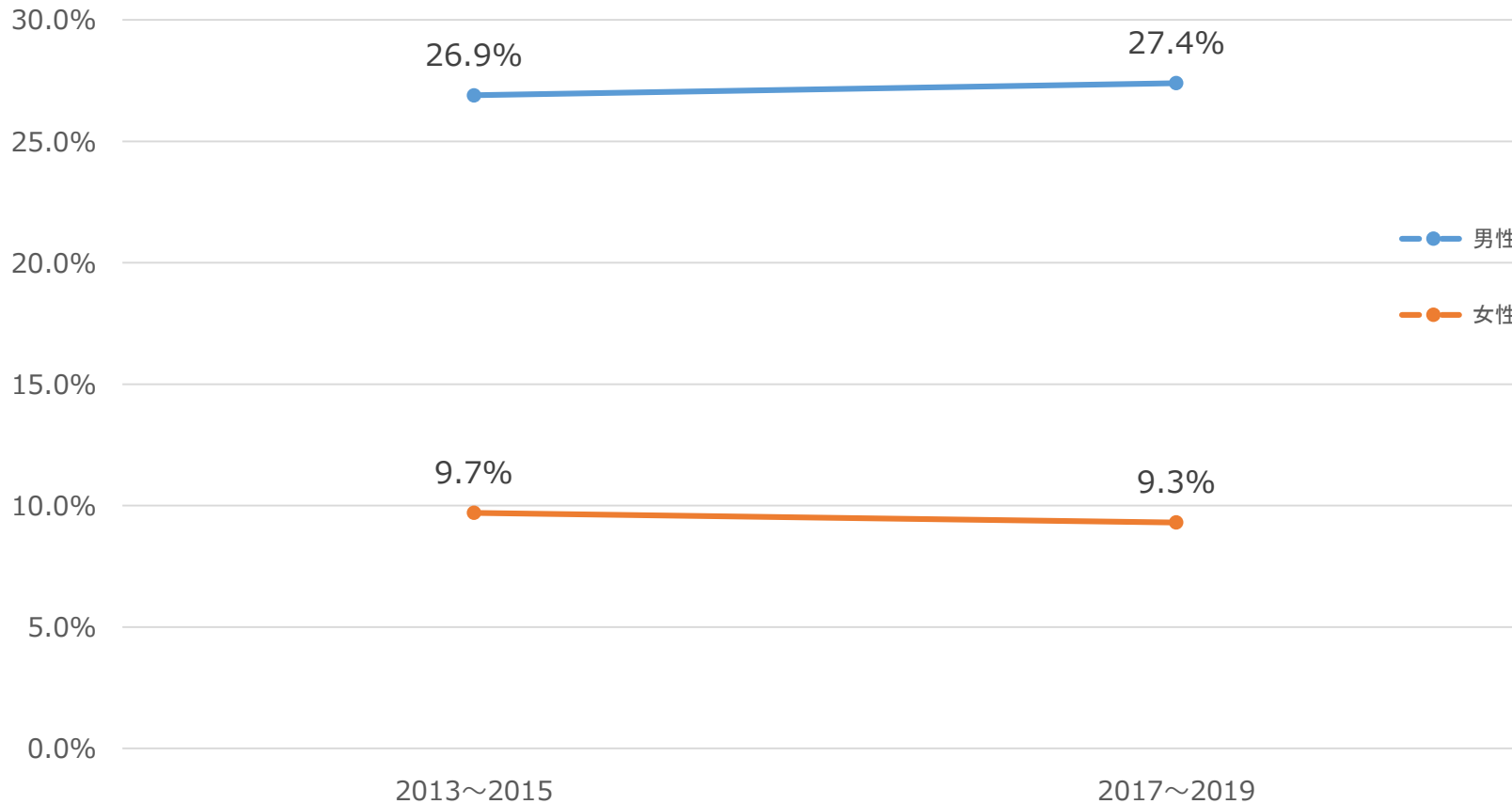
80歳（75～84歳）で20本以上の自分の歯を有する者の割合は増加傾向にある。

新型コロナウイルス感染症の影響で県民健康・栄養調査が実施できず、第三期における推移の数値が把握できていない。

# たばこ対策について

【目標値】 成人喫煙率 男性21.5% 女性4.4%

(1) 前年度との比較 (実績値の推移)



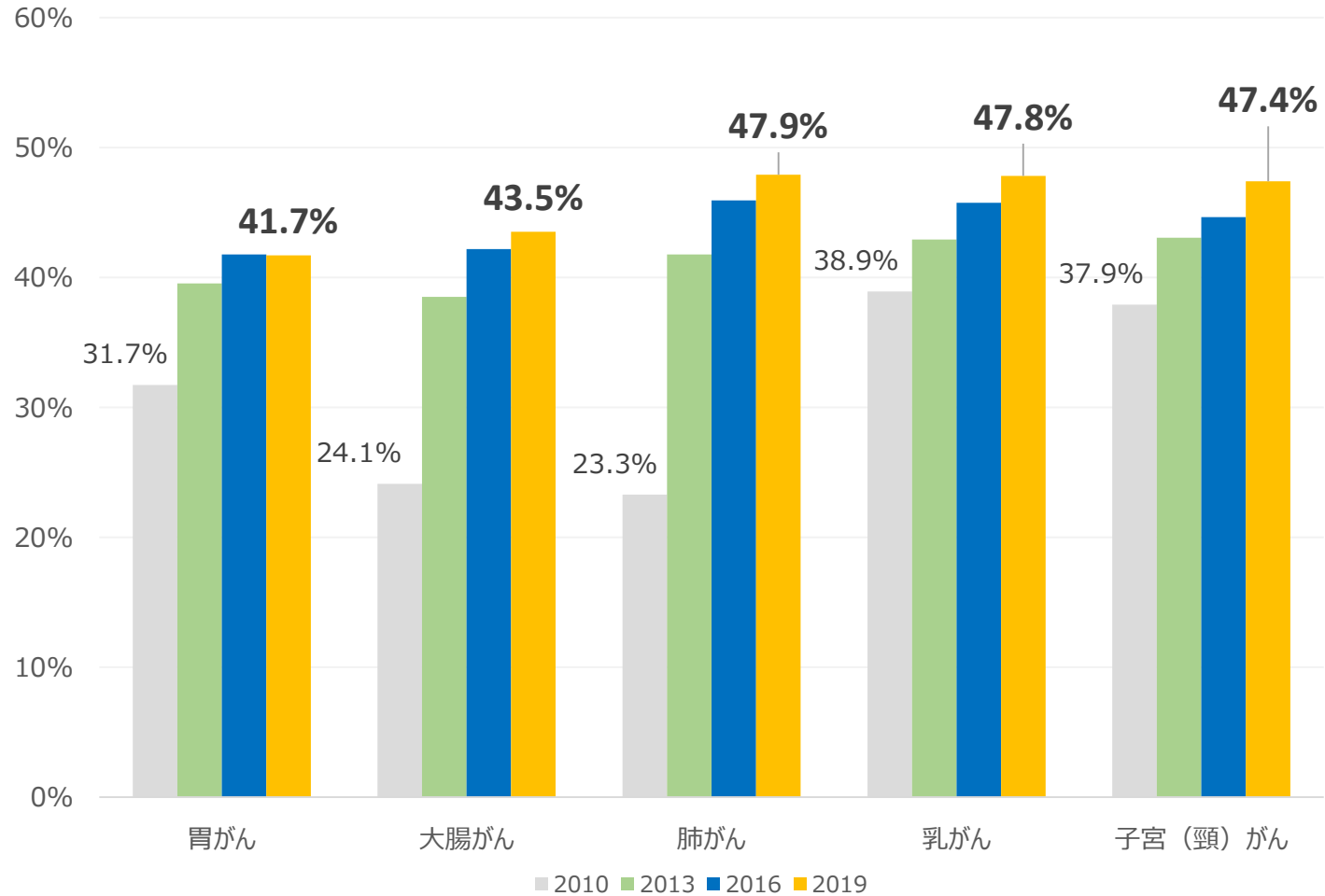
男性は微増している  
女性は微減している

新型コロナウイルス感染症の影響で県民健康・栄養調査が実施できず、第三期における推移の数値が把握できていない。

# がん検診について

【目標値】 胃がん・大腸がん等の検診受診率 50%以上

(1) 前年度との比較 (実績値の推移)



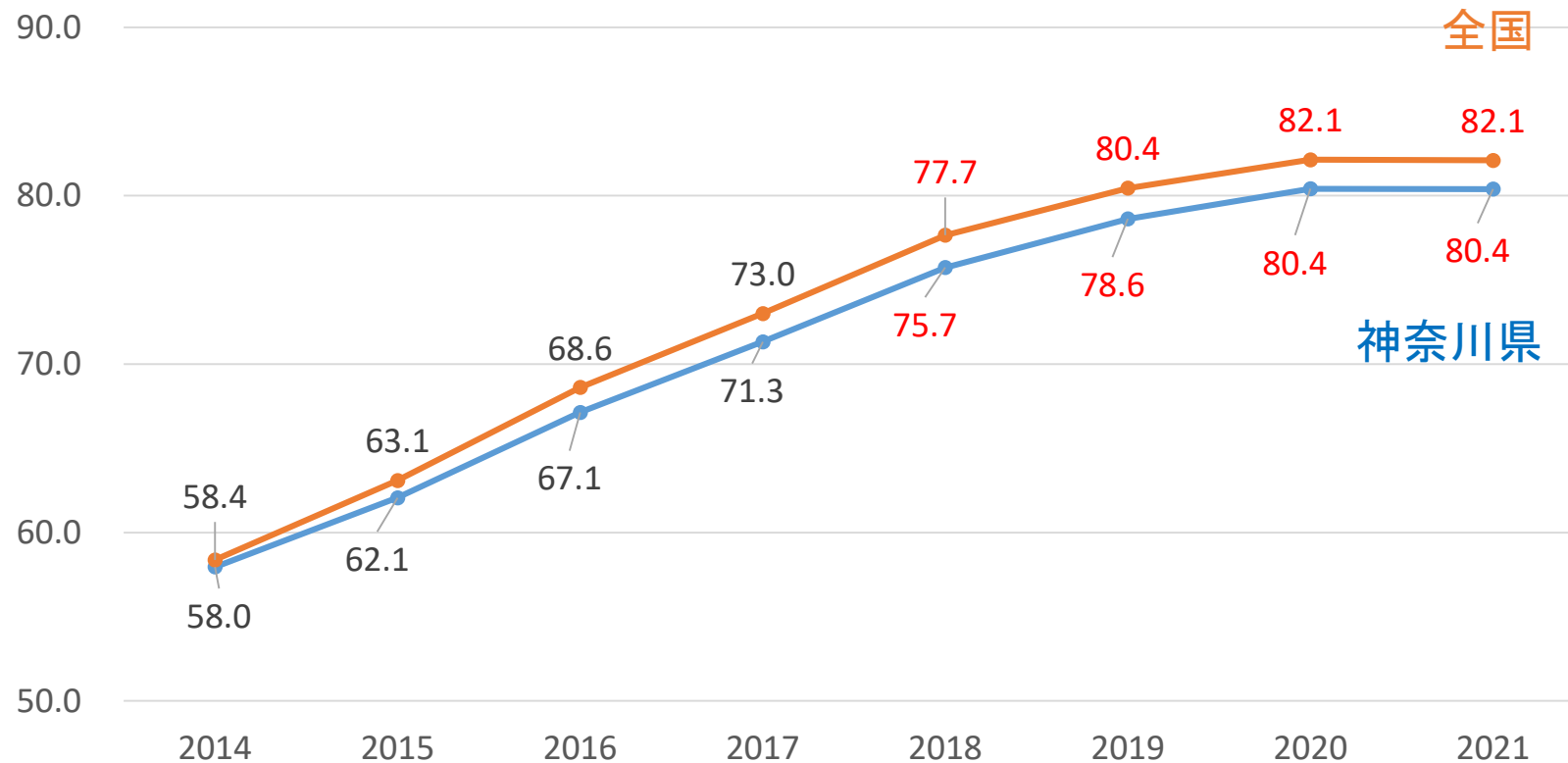
2010年度より検診受診率は上昇傾向である。

2019年度は胃がんを除き、前回調査時より上昇した。

出典: 国民生活基礎調査

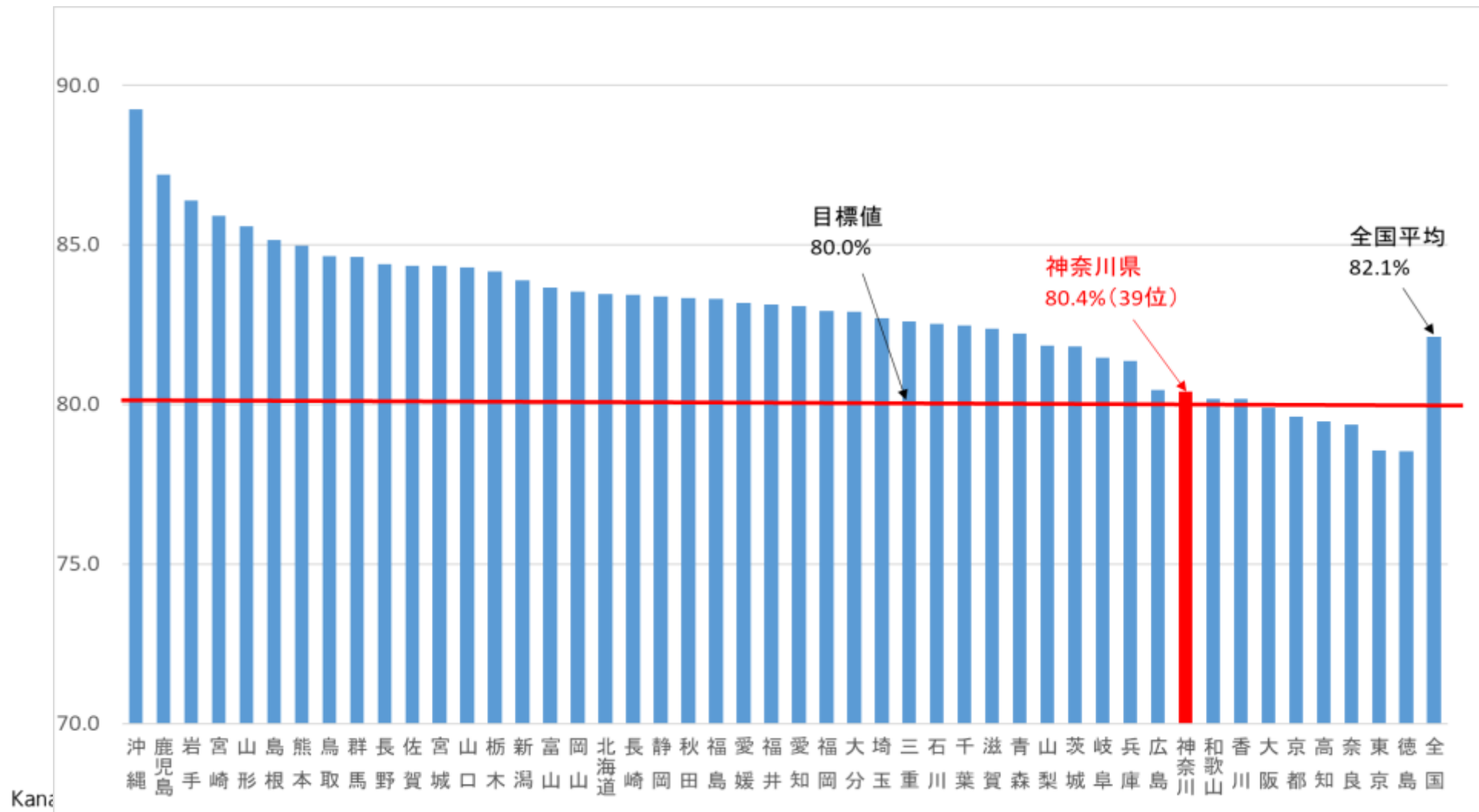


## (1) 前年度との比較・全国との比較（実績値の推移）



・後発医薬品の使用割合は、目標値の80%を超えたが、全国の使用割合からは下回っている。

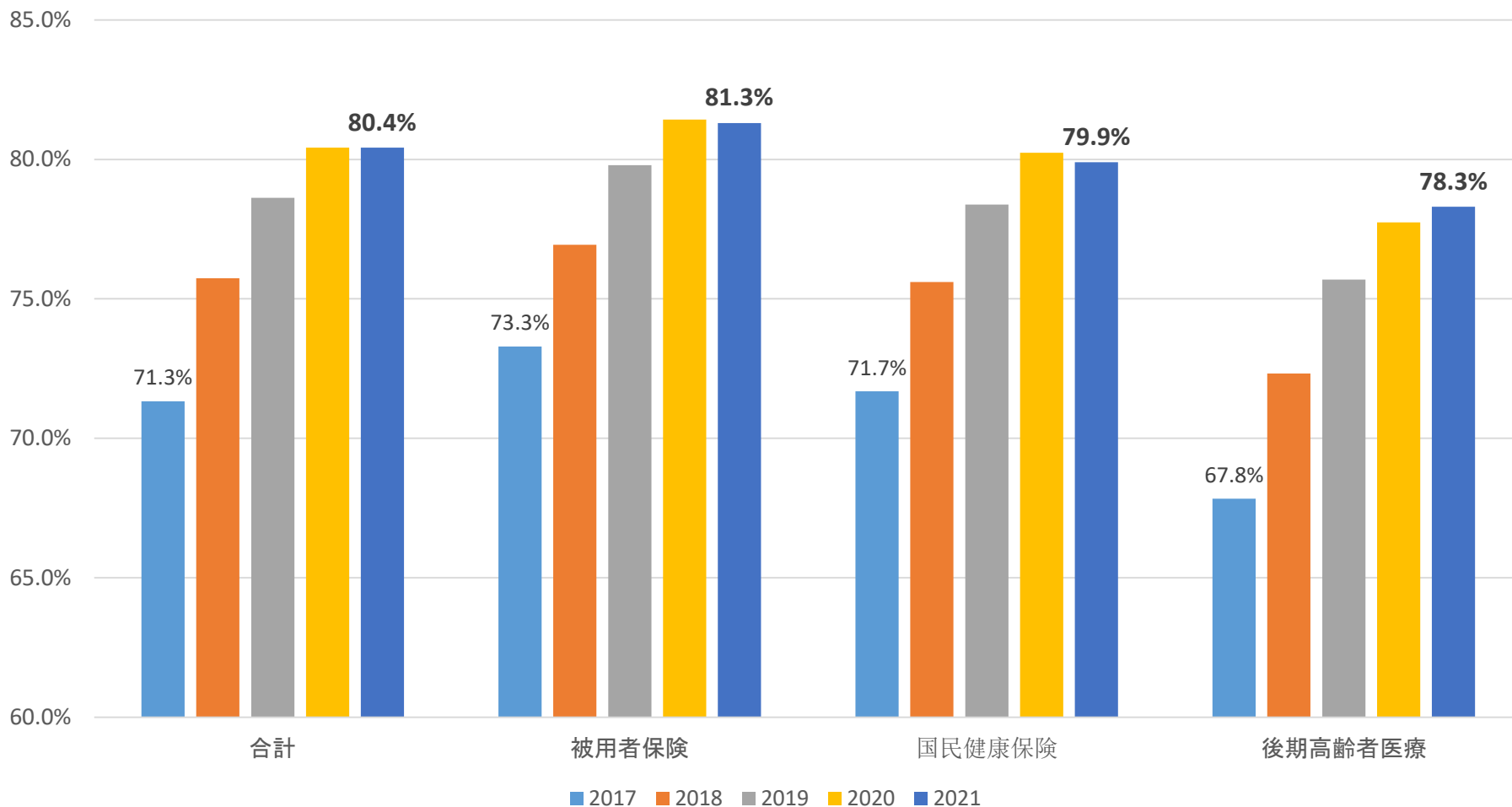
## (2) 他都道府県との比較 (2021年度)



・後発医薬品の使用割合は、目標値（80%）を超えたが、全国での順位は39位で全国平均に届いていない。

出典：【厚生労働省】調剤医療費の動向より

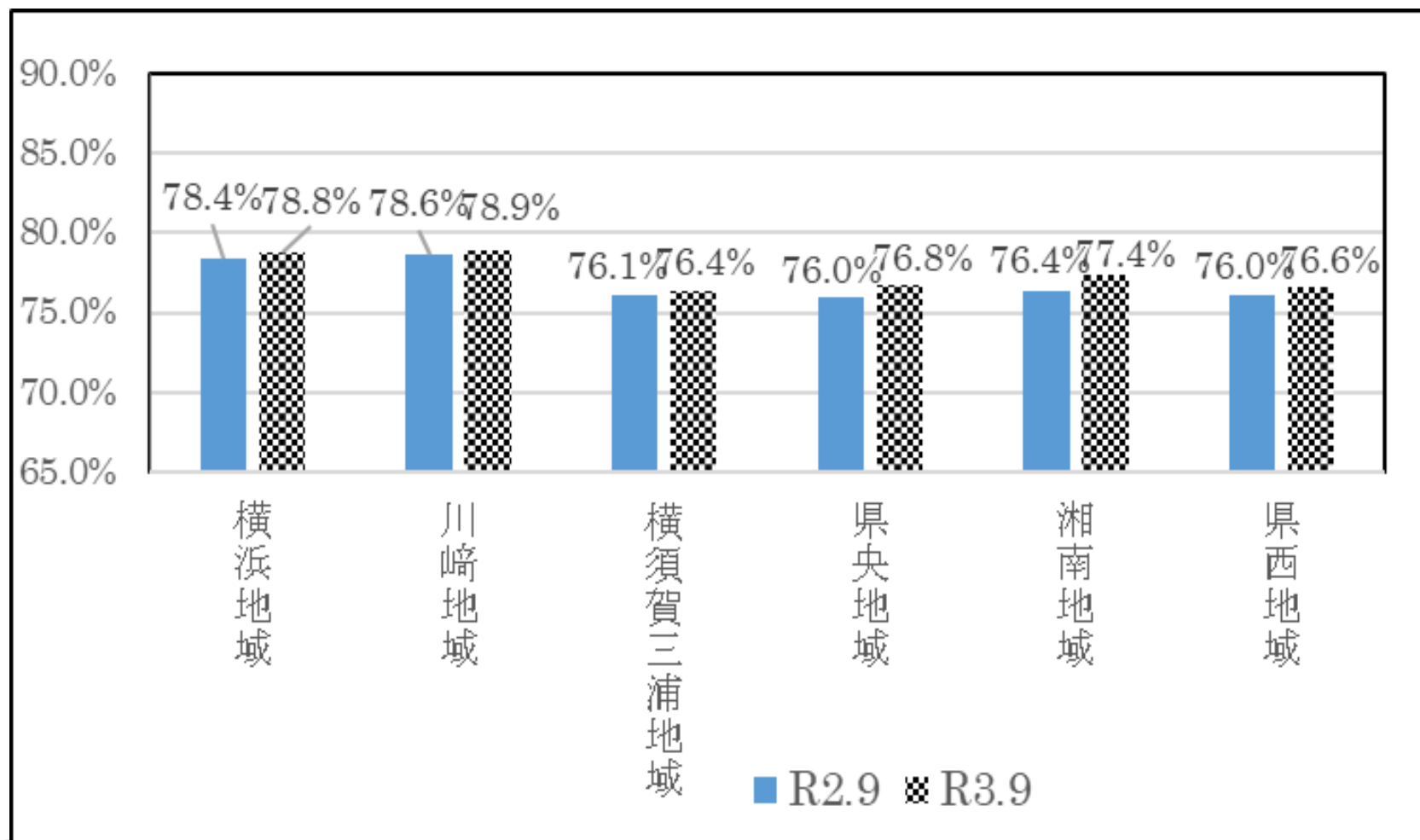
### (3) 県内保険者間比較（実績値の推移）



・ 2017年度より使用割合は各保険者増加傾向である。

・ 2021年度は国民健康保険及び後期高齢者医療が目標値の80%を達成していない。

## (4) 神奈川県国保の地域別後発医薬品の使用割合



・神奈川県国保の後発医薬品の使用割合は、目標値80%は達成していません。

・なお、横浜、川崎以外の地域の使用割合が僅かに低い状況ですが、いずれの地域も2020年度から2021年度にかけて上昇しています。

### 3 医療費適正化の効果について

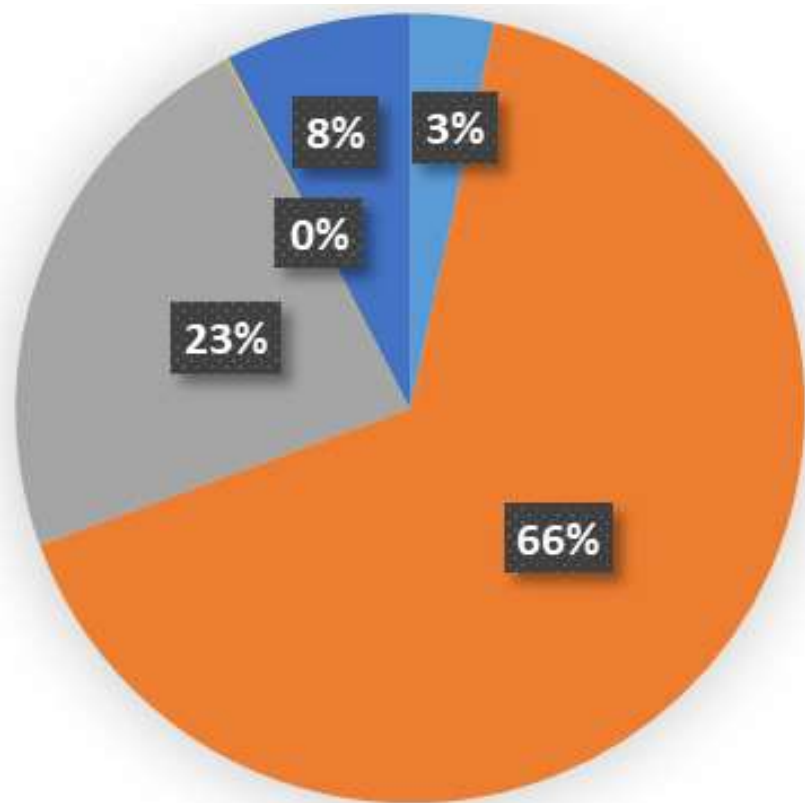
# 医療費の推計適正化の効果について①

単位：億円

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 適正化前推計	29,707	30,548	31,388	32,228	33,069	33,909
② 適正化後推計	29,644	30,422	31,199	31,977	32,754	33,532
③ 推計適正化額	63	126	189	251	315	377
④ 実績	28,081	28,889	27,925			
⑤ 実績適正化額 (①－④)	1,626	1,659	3,463			
⑥ 実績と推計の差 (⑤－③)	1,563	1,533	3,274			

# 医療費の推計適正化の効果について②

## 神奈川県2023年度適正化効果額の内訳



- 特定健康診査等の実施率の向上 (13億円)
- 後発医薬品の使用促進 (248億円)
- 糖尿病に関する取組の推進 (86億円)
- 重複投薬の適正化 (0.3億円)
- 複数種類の医薬品の投与の適正化 (28億円)

・国は特定保健指導の医療費適正化の効果として、1人当たり6,000円、特定健康診査70%、特定保健指導45%を達成することにより、約200億円程度の医療費適正化の効果があると見込んでいます。

・2023年度の本県の推計適正化額(377億円)の内訳を分解すると、後発医薬品の使用促進が全体の2/3を占めています。